

国際協力事業団

シリア・アラブ共和国
工業省
繊維公団

シリア・アラブ共和国
繊維産業開発計画
調査報告書(要約)

シリア・アラブ共和国

繊維産業開発計画

調査報告書

(要約)

1998年3月

1998年3月

JICA LIBRARY



J1141343(2)

国際協力事業団

ユニコ インターナショナル株式会社
東洋紡エンジニアリング株式会社

313
696
MPI
RARY

鉦調工
JR
98-007

国際協力事業団

シリア・アラブ共和国

工業省

繊維公団

シリア・アラブ共和国

繊維産業開発計画

調査報告書

(要約)

1998年3月

ユニコ インターナショナル株式会社
東洋紡エンジニアリング株式会社



1141343 (2)

略語表

ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
ATC	Agreement on Textiles and Clothing	繊維及び繊維製品 (衣料を含む。)に関する協定
A/W	Acrylic/wool blended	アクリルウール混
CB	Convertible bond	転換社債
CBS	Central Bureau of Statistics	同左 (シリア)
CD	Certificate of deposit	譲渡性預金
CMO	Cotton Marketing Organization	同左 (シリア)
CV	Coefficient of variation	変動率
DTY	Draw Textured Yarn	Draw Textured Yarn
EU	European Union	欧州連合
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国連食料農業機関
FMD	Foreign material detector	異物検知装置
FSU	Former Soviet Union	旧ソ連邦 15 か国
FTC	Foreign Trade Center	同左 (シリア)
FY	Filament yarn	フィラメント糸 (長繊維)
GATT	General Agreement on Tariffs and Trade	関税と貿易に関する一般協定
GCC	Gulf Coast Conference	湾岸協力会議
GDP	Gross domestic product	国内総生産
GOTI	General Organization for Textile Industry	繊維公団 (シリア)
HVI	High Volume Instruments	大量高速綿花品質測定機
ICAC	International Cotton Advisory Committee	世界綿花評議会
IPI	Imperfection index	糸の thin, thick, nep 指標
ISO	International Standard Organization	国際標準化機構
ITMF	International Textile Manufacturing Federation	国際繊維製造連盟
ITRC	Industrial Testing & Research Center	同左 (シリア)
JCSFIF	Japan Cotton and Staple Fiber Fabric Inspecting Foundation	綿スフ織物検査協会
JETRO	Japan External Trade Organization	日本貿易振興会
JSIF	Japan Spinners' Inspection Foundation	日本紡績検査協会
L/C	Letter of Credit	輸出信用状
MEDA	Mediterranean Assistance	地中海援助
MFA	Multi Fiber Arrangement	繊維製品の国際貿易に関する 取極
MITI	Ministry of International Trade and Industry	通商産業省
NAFTA	North Atlantic Free Trade Area	北大西洋自由貿易地域

Ne	Number of end	糸番手
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OES	Open end spinning	オープンエンド紡績
OPT	Outward processing trade	委託加工貿易
P/C	Polyester/cotton blended	ポリエステル綿混
POY	Partially Oriented Yarn	Partially Oriented Yarn
P/R	Polyester/rayon blended	ポリエステルレーヨン混
P/W	Polyester/wool blended	ポリエステル毛混
QC	Quality control	品質管理
QR	Quick response	クイックレスポンス
SASMO	Syrian Arab Organization for Standardization and Metrology	
		同左 (シリア)
SEBC	Syrian European Business Center	同左 (シリア)
SC	Sugar content	残留糖分度
SF	Staple fiber	ステープルファイバー (短繊維)
SLM	Strict low middling	ストリクトローミドリング
SM	Strict middling	ストリクトミドリング
SOP	Standard operation procedure	標準動作
SP	Syrian Pound	シリアポンド
SPC	State Planning Commission	同左 (シリア)
SWIFT	Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication	国際銀行間通信協会
TQC	Total quality control	総合品質管理
U	Unevenness of yarn	糸斑
WTO	World Trade Organization	世界貿易機関

目次

頁

要約図 (Executive Summary with Illustrations)

第1章 調査の背景・目的と範囲.....	1-1
1.1 調査の目的.....	1-1
1.2 調査の背景.....	1-1
1.3 調査の対象と範囲.....	1-2
第2章 シリア経済の発展.....	2-1
2.1 政治社会の発展.....	2-1
2.2 繊維産業の行政システム.....	2-1
2.3 マクロ経済の発展.....	2-1
2.4 経済改革への挑戦.....	2-2
第3章 産業振興政策 (現状と問題点)	3-1
3.1 シリアの繊維産業の概要.....	3-1
3.2 バランスを欠く活動構造.....	3-1
3.3 国営企業の雇用と資金.....	3-1
3.4 価格.....	3-2
3.5 会計.....	3-3
3.6 輸入と販売.....	3-3
3.7 外国貿易と海外投資.....	3-3
3.8 金融.....	3-4
3.9 輸出促進.....	3-4
3.10 外資導入振興策.....	3-4
3.11 国営企業の収益性.....	3-4
3.12 工業への行政機能.....	3-5
3.13 産業政策.....	3-5
3.14 国家開発計画における繊維産業.....	3-5

	頁
第4章 繊維産業の現状と問題点.....	4-1
4.1 繊維原料.....	4-1
4.1.1 国産繊維原料.....	4-1
4.1.2 化合繊.....	4-2
4.1.3 繊維企業の全体像.....	4-2
4.1.3.1 国営企業と民間企業の活動分野.....	4-2
4.1.3.2 繊維素材別の繊維産業像.....	4-5
4.1.3.3 国営企業の動向.....	4-7
4.1.3.4 民間企業の動向.....	4-8
4.1.4 GOTI (繊維公団) 開発5ヶ年計画 (ドラフト) (1996-2000)の概要.....	4-10
4.2 国営繊維企業の現状と問題点.....	4-20
4.2.1 国営繊維企業全般.....	4-20
4.2.1.1 国営繊維企業の現状.....	4-20
4.2.1.2 国営繊維企業の問題点.....	4-20
4.2.2 国営綿繊維企業.....	4-21
4.2.3 国営羊毛繊維企業.....	4-21
4.2.4 国営絹繊維企業.....	4-22
4.3 民間繊維企業の現状と問題点.....	4-22
4.3.1 民間企業の活動分野.....	4-22
4.3.2 民間企業の活動状況.....	4-22
4.3.3 民間繊維企業の現状.....	4-23
4.3.4 民間繊維企業の問題点.....	4-26
4.3.4.1 全般.....	4-26
4.3.4.2 民間輸出縫製産業の問題点.....	4-26
4.3.4.3 シリア綿を使用した衣料品輸出の問題点.....	4-27
4.3.4.4 輸入材料による衣料品輸出の問題点.....	4-28
4.3.4.5 染色関係の問題点.....	4-28

	頁
第5章 繊維産業に対するサポーティングサービス.....	5-1
第6章 需給予測.....	6-1
6.1 世界の繊維製品の需給の現状と予測.....	6-1
6.1.1 世界の地域別・素材別需給の現状と予測.....	6-1
6.1.1.1 世界の地域別繊維需要の現状と予測.....	6-1
6.1.1.2 世界の素材別・地域別需要の現状と予測.....	6-1
6.1.1.3 一人当たりの繊維消費量.....	6-1
6.1.1.4 合繊化率.....	6-2
6.1.2 世界の繊維生産.....	6-2
6.1.3 世界の繊維製品貿易の現状と予測.....	6-2
6.1.3.1 世界の繊維の中間需要 (Mill consumption)	6-2
6.1.3.2 世界の繊維製品輸出入.....	6-2
6.1.3.3 世界の繊維製品輸出国と輸入国.....	6-3
6.1.3.4 世界の繊維産業の人件費比較.....	6-3
6.1.3.5 WTO 問題.....	6-3
6.1.3.6 主要国の繊維貿易の現状と将来.....	6-4
6.2 シリアの繊維消費の現状分析.....	6-16
6.2.1 シリアの統計.....	6-16
6.2.2 FAO の統計 (Food and Agriculture Organization of the United Nations)	6-16
6.2.3 諸外国からシリアへの輸出統計.....	6-16
6.2.4 シリアの繊維消費量のまとめ.....	6-17
6.2.5 シリアの繊維消費の素材・形態別分類.....	6-18
6.3 シリアの繊維需要予測.....	6-22
6.3.1 国内・輸出需要に関係する共通要因 (前提条件)	6-22
6.3.2 国内需要に影響する要因.....	6-22
6.3.3 輸出に影響する要因.....	6-22
6.3.3.1 シリアからの輸出の比較優位.....	6-22

	頁
6.3.3.2 シリアからの輸出で問題となる要因.....	6-25
6.3.4 輸出市場.....	6-25
6.3.5 国内原糸・原綿の生産予測.....	6-27
6.3.6 国内繊維需要予測.....	6-28
6.3.7 繊維輸出需要予測.....	6-29
第7章 開発戦略、開発目標.....	7-1
7.1 開発戦略.....	7-1
7.1.1 開発戦略策定のための基本要素.....	7-1
7.1.2 開発戦略.....	7-3
7.1.2.1 綿繊維製品、特に衣料の輸出（国産綿花を原料とした衣料輸出）.....	7-4
7.1.2.2 縫製品輸出（輸入布、副資材を使った縫製品輸出）.....	7-5
7.1.2.3 既存繊維加工設備の効率的利用.....	7-6
7.1.2.4 輸入代替.....	7-7
7.1.2.5 羊毛・絹の活用.....	7-7
7.2 開発目標.....	7-9
7.2.1 国産綿を原料としたニット衣料品輸出.....	7-9
7.2.2 縫製品輸出（輸入布、副材料を使った縫製品輸出）.....	7-10
7.2.3 既存繊維加工設備の有効利用.....	7-11
7.2.4 合繊混紡糸の生産（輸入代替）.....	7-11
第8章 繊維産業振興のための提言.....	8-1
8.1 振興政策の改善.....	8-1
8.2 輸出促進策.....	8-9
8.3 個別事業レベルのプロジェクト.....	8-11
8.3.1 シリア綿花を原料とした衣料の輸出.....	8-11
8.3.2 シリア綿花を原料とした低品質の綿紡績糸を使った太番手、厚地の綿生地を生産するプロジェクト.....	8-11
8.3.3 輸入布と付属品を使用した衣料の輸出.....	8-13

8.3.4	ポリエステル／綿混紡品の一貫工場建設（紡績・織布・染色仕上げ）	8 - 14
8.3.5	綿花試験室の建設—HVI（High Volume Instrument）の導入	8 - 14
8.3.5.1	HVI 導入の意義	8 - 14
8.3.5.2	提案プロジェクト	8 - 15
8.3.6	新規大規模紡績工場の安定生産の維持	8 - 15
8.3.7	羊毛の将来ビジョン	8 - 16
8.3.8	絹のミニプラン	8 - 17
8.3.9	シリアにおける合成繊維の生産の可能性について（参考）	8 - 17
8.3.10	プロジェクトの優先順位	8 - 17
8.4	サポート機能改善提案	8 - 21
8.4.1	人材開発関連	8 - 21
8.4.2	品質管理・生産性向上関係	8 - 21
8.4.3	緊急度と優先順位	8 - 22
8.4.3.1	輸出促進策	8 - 22
8.4.3.2	人材開発関連	8 - 23
8.4.3.3	品質管理・生産性向上関連	8 - 23
8.5	プロジェクトの資金ソース	8 - 23
8.6	工業国に援助を要請した方が良いと考えられるプロジェクト	8 - 24
8.7	生産性向上	8 - 25
8.7.1	生産性向上の目的	8 - 25
8.7.2	QDC（Quality, Delivery, Cost）	8 - 26
8.7.3	国営企業の生産性の問題点と対応策	8 - 26
8.7.3.1	品質 Quality	8 - 27
8.7.3.2	適時性（タイミング） Delivery	8 - 28
8.7.3.3	原価 Cost	8 - 28
8.7.4	Hama Cotton Yarns Company の例	8 - 29
8.7.5	国営企業と輸入合繊との競合	8 - 30

第9章 工場診斷結果.....9-1

EXECUTIVE SUMMARY WITH ILLUSTRATIONS (2)

LABOR COST

Fig. 6.1-17 (Fig. S6.1-6) LABOR COST PER MAN-HOUR IN SPINNING AND WEAVING IN THE WORLD -1- (1993)

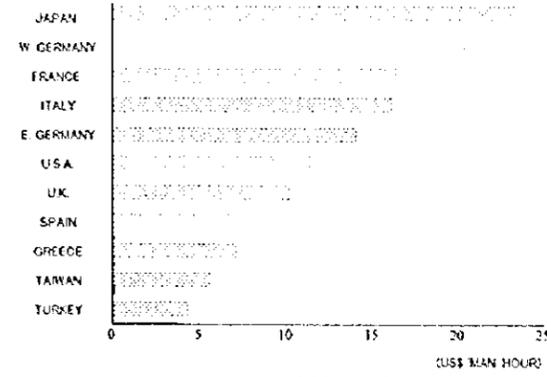
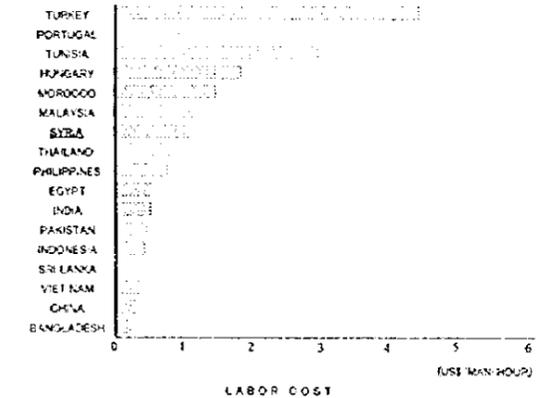


Fig. 6.1-18 (Fig. S6.1-7) LABOR COST PER MAN-HOUR IN SPINNING AND WEAVING IN THE WORLD -2- (1993)



EXPANDING CLOTHING TRADE

Fig. 6.1-11 (Fig. S6.1-3) IMPORTS AND EXPORTS OF YARN, CLOTHING FOR MAIN TRADING COUNTRIES AND REGIONS (1995-2005)

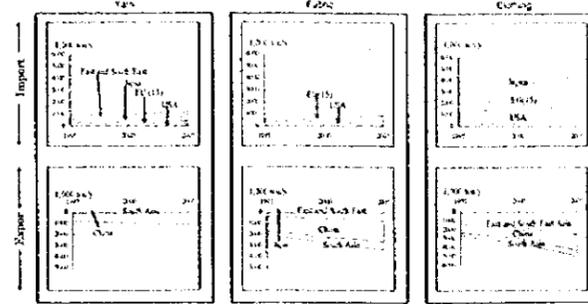
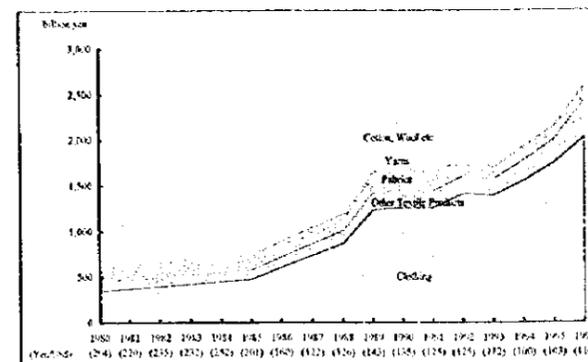


Figure 6.1-19 JAPAN IMPORTS OF TEXTILES (VALUE)



NEW PROJECT PROPOSAL (FROM FRONT PAGE)

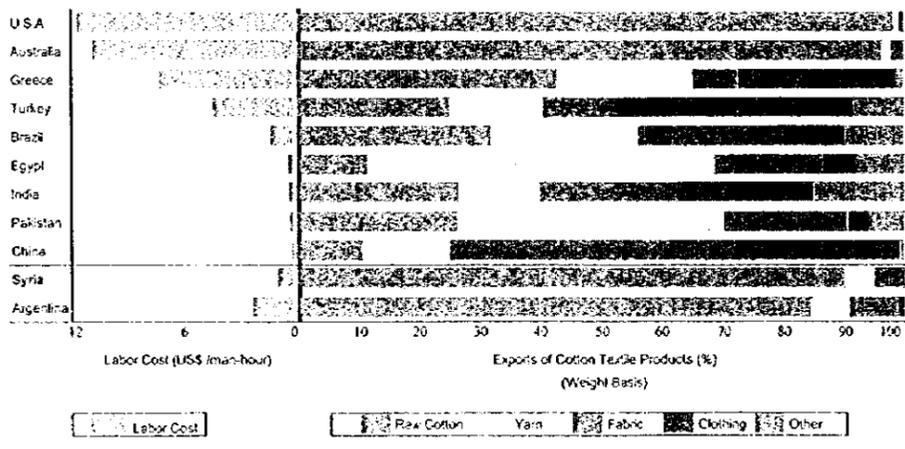
SUMMARY OF PROPOSED PROJECT

Fig. 8-1 (Fig. S8-1) SUMMARY OF PROPOSED PROJECTS AND SUGGESTIONS

Project	Exported	Imported	Value
Project 1	100	50	100
Project 2	200	100	200
Project 3	300	150	300
Project 4	400	200	400
Project 5	500	250	500
Project 6	600	300	600
Project 7	700	350	700
Project 8	800	400	800
Project 9	900	450	900
Project 10	1000	500	1000

LABOR COST AND CLOTHING EXPORT

Fig. 6.3-1 (Fig. S6.3-1) EXPORTS OF COTTON TEXTILE PRODUCTS AND LABOR COST OF THE COTTON PRODUCING COUNTRIES



SYRIAN COMPETITORS

Tab. 6.3-3 (Tab. S6.3-1) EU'S TOP TEN CLOTHING SUPPLIERS (1994)

Rank	Country	Value (US\$ million)	Share 1995 (%)	Change 1995/94 (%)
1	China	4,803	10.9	-2.8
2	Hong Kong	4,381	10.0	-0.3
3	Mexico	3,037	6.9	60.1
4	Taiwan	2,757	6.3	-2.6
5	South Korea	2,271	5.2	-7.3
6	Dominican Republic	1,787	4.1	10.4
7	Philippines	1,704	3.8	17.0
8	Canada	1,652	3.8	25.4
9	India	1,615	3.7	6.3
10	Italy	1,454	3.3	15.1
Total		43,974	100.0	10.0

Tab. 6.3-4 (Tab. S6.3-2) USA: TOP TEN SUPPLIERS OF MFA TEXTILES AND CLOTHING, 1995

Rank 1995	Country	Value (US\$ million)	Share 1995 (%)	Change 1995/94 (%)
1	China	4,803	10.9	-2.8
2	Hong Kong	4,381	10.0	-0.3
3	Mexico	3,037	6.9	60.1
4	Taiwan	2,757	6.3	-2.6
5	South Korea	2,271	5.2	-7.3
6	Dominican Republic	1,787	4.1	10.4
7	Philippines	1,704	3.8	17.0
8	Canada	1,652	3.8	25.4
9	India	1,615	3.7	6.3
10	Italy	1,454	3.3	15.1
Total		43,974	100.0	10.0

第1章 調査の背景・目的と範囲

1.1 調査の目的

- (1) 2010年までを対象とした繊維産業開発にかかるマスタープランの策定。マスタープランの内容は大略以下の通り。
 - 1) マクロレベル
 - (a) 繊維製品の将来需給予測
 - (b) 繊維産業振興政策の改善案提言
 - 2) セミマクロレベル
 - (a) 繊維産業サポート機能の強化計画
 - (b) 産業内部門間連関の将来像提示
 - 3) ミクロレベル
 - (a) 一般的な品質・生産性向上に資する提言
 - (b) モデル国営企業の近代化計画
- (2) シリア側関係者に対する、繊維産業開発、工場近代化などにかかる技術移転

1.2 調査の背景

シリアの繊維産業は生産額が製造業の部門全体の27%（1994年）を占め、国内で生産される綿花、羊毛等を有効利用したアグロインダストリーである。輸出額は国全体の輸出額の10.9%、製造業輸出の35.5%（1994年）を占める貴重な外貨獲得源である。就業者数も公的部門の21.7%（1994年）と多く、伝統のある産業である。

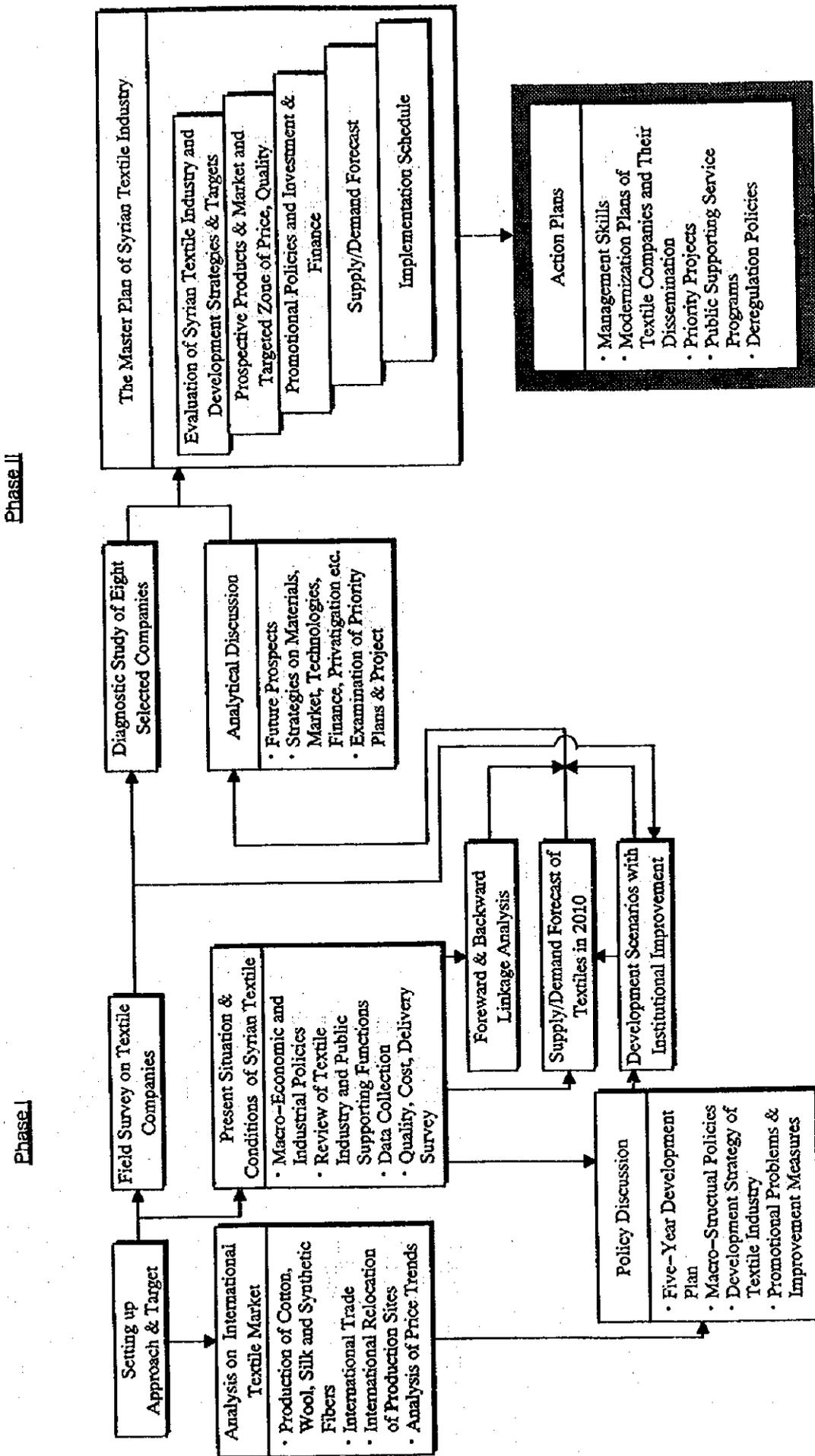
一方、旧ソ連・東欧圏向け輸出の激減、品質面における低い国際競争力、社会主義政策の下での国営企業の非効率的経営、生産設備の老朽化、国内外の民間投資法の導入などに伴う環境変化への対応などの課題を抱えており、変革期にさしかかっている。かかる背景から、シリア国政府は日本国政府に対し、繊維産業の振興開発にかかるマスタープランの策定を要請した。これを受け、国際協力事業団はプロジェクト選定確認調査団、予備調査団を派遣し、本格調査の内容、枠組みにつき合意し、実施細則(S/W)の署名を行った。

1.3 調査の対象と範囲

調査対象地域はシリア国全域とします。

調査の範囲については、貴事業団の業務指示書および S/W に詳細に規定されておりこれに基づき実施し、目標最終年をシリアが EU に加盟する 2010 年とします。調査期間は 1997 年 2 月中旬から約 11 ヶ月であり、これをフェーズ 1 及びフェーズ 2 に分けると図 S1.3-1 のようになります。

FIG 1.3-1 WORKSTEPS OF THE STUDY



第2章 シリア経済の発展

2.1 政治社会の発展

シリアは、1946年にフランスから独立して以来、1950年代後半までは自由経済であった。1960年代初期に土地改革、工業・銀行の国有化を通じて社会主義国となったが、1970年代以降規制緩和により民間の役割が大きくなっている。1986年に「法令10号」を公布し、国内資本との合併による外国直接投資を許可するようになった。旧ソ連邦の崩壊とイラクのクェートへの進入という湾岸戦争の後に、シリアは政治スタンスを変えて欧米と親しくなった。シリアは1991年5月「法令10号」を改正して、市場経済への転換をトーンアップするとともに、石油輸出を開始した。こうした慎重に考え抜いた行動と海外援助の復活によって、1990年代の経済開発は順調であった。

シリアの人口は年3.3%という高い増加の結果、1996年で1,460万人である。

2.2 繊維産業の行政システム

シリアの政府は33省からなっているが、繊維産業はこの内の8省と関係している。国家計画委員会（SPC）、経済貿易省、供給国内取引省、大蔵省、工業省、農業省、外務省、高等教育省である。SPCは他省および国営企業に対して、開発計画を通じる資源配分において優越的なステータスを持っている。

2.3 マクロ経済の発展

経済成長は1960年代は低かったが、70年代に規制緩和により改善した。1980年代は外貨不足で苦しい時期であったが、1990年代には石油輸出、外国援助の再開、EU貿易の回復、観光によって約7%に回復した。（表S2.3-1）

シリアには価格監視システムがあり、コストプラス適正利潤の原則ですべての価格決定をしている。インフレは小売価格で1990年代前半は年8-10%であった。

国家予算はGDPの30%近くあり、財政赤字は1980年にGDPの18%であったものが1997年には4.1%に改善している。銀行システムは未発達である。シリアは1963年に銀行を国有化し、5つの特殊銀行に集約した。

シリアは今なお輸出・輸入を個別に統制している。輸出は1989年以降増大しているが、貿易赤字が続いている。国際収支は資本流入、観光、移転受取があり黒字である。外国為替の管理は1990年に緩和されたが、そのシステムは複数レートで複雑である。

表 S2.3-1 Main Indicators in Syrian Economy

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
GDP (in real term, %)	7.1	10.6	6.7	7.6	3.6	-	-
Per Capita GDP (SP)	24,867	28,680	30,893	36,377	38,894	-	-
Inflation (retail price, %)		11.0	13.2	15.3	7.6	-	-
Budget Expenditure (SP bil.)	84	93	123	144	162	187	211
Foreign Current Balance over GDP (%)	-7.6	-11.4	-13.0	-12.4	-7.1	-	-
Foreign Exchange Rate (SP/US\$)							
Official rate	11.25	11.25	11.25	11.25	11.25	11.25	11.25
Neighboring rate	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	44.00	45.50
Black market rate	45.80	47.68	49.67	49.96	50.05	50.07	50.62

2.4 経済改革への挑戦

シリアは IMF、世銀の勧告する構造調整政策は受け入れていないが市場経済化と国際経済との調和への努力をしてきた。

アラブ自由貿易圏、ヨーロッパ地中海自由貿易圏という2つの地域統合計画がある。シリアは貿易自由化と、10年間で関税をゼロにするという大きな挑戦がある。さらに、それは外国為替レートの統一と銀行制度の近代化という2つの大きな仕事がある。

第3章 産業振興政策（現状と問題点）

3.1 シリアの繊維産業の概要

シリアは繊維原料を生産している。実綿は小麦に次ぐ第2の作物であり、綿花の75%は輸出されている。

繊維原料の生産（トン、1995年）

実綿	600,000
羊毛	5,000
繭	20

コットンジーニングは国営企業が行っている。綿紡績は主として繊維公団（GOTI）傘下の国営企業が行っている。一方民間は繊維の下流部門、例えば下着、トリコット、ストッキングなどの生産では重要な役割を演じている。

3.2 バランスを欠く活動構造

シリアでは現実論として、所有権を政府から民間に移すと言う意味での民営化は行わないということが共通の理解になっている。その代り、政府は沢山の業種で民間活動の促進を進めてきた。民間のビジネスマンでお金持は沢山でているが、多くの国営企業が売上の減少に苦しんでいる。国営企業にはそれ自身の問題はあるが、その多くは国営企業に課せられた制度的条件と関係している。

3.3 国営企業の雇用と資金

統一雇用法によって、一般行政の新規採用、労働条件、資金といった雇用規制が1985年以降国営企業にも適用されることになった。たとえ長年にわたり赤字の続いている国営企業であってもこれを閉鎖するということは、許可の手続きと代替的な職場の提供ということで非常に難しい。

国営企業の経営者は首相と担当大臣によって任命されるが、政党と労働組合が意思決定に参画している。公務員には民間に比して低賃金であるとの不満があり、国営企

業の技能者、有能な経営者はより多額の報酬で民間企業に引き抜かれている。(表 S3.3-1)

表 S3.3-1 EMPLOYEES IN INDUSTRY, 1995

thousand

	Employees	
	Public	Private
Food, beverages & tobacco	55	23
Textile, clothing & leather	69	37
Wood & furniture	25	24
Paper, printing & publishing	3	2
Chemical & petroleum refining	20	6
Non-metal	15	5
Basic metal	3	1
Metal product	40	34
Manufacturing Total	246	148
Mining & quarrying	16	
Electricity & water	35	
Industrial Total	149	

Sources: Central Bureau of Statistics

3.4 価格

商品の価格、サービスの料金は、法令によりコストプラス適正利潤の原則で規制されている。計算方法を特定化しており、適正利潤は業種別に供給国内取引省が決定している。各社は、価格を変更した時は、政府に通報しなくてはならない。この厳格な価格監視システムは販売できないということで在庫積み増しの原因となる。

綿花の価格は政府が決定している。コストは多くの理由で上昇して、シリアの繊維産業は国内綿花の価格の高いことを不満としている。

個別の価格統制ではインフレをとめることはできない。このためにはマクロ経済管理が必要である。

3.5 会計

シリアの会計制度はエジプトを手本としているので先進国のそれに類似している。国営企業の税引後の純利益は予算ルールで規制されている。流動性余剰は更新、近代化投資又は、運転資金不足に活用することができる。財政余剰は新規投資の準備金と財政収入に分かれている。新規投資は主として国家予算によってまかなわれ、赤字企業は国家予算で救済されている。

マネー規律が弱いこと、銀行システムが未発達であること、民間企業の税回避の動きがあることから会計は重視されていない。

3.6 輸入と販売

国営企業が年間5万SP以上のものを公団外から購入する時は、入札手続きが必要である。原料輸入では外貨入手の問題がある。新規投資は政府決定が必要である。機械設備の輸入契約には首相の承認が必要である。

海外販売活動は国営企業職員の海外渡航の制限措置等制約がある。海外渡航するには、大臣の許可のほかに必要な予算手当をしなくてはならない。

3.7 外国貿易と海外投資

貿易と投資には多くの制約がある。綿花、綿実 は綿花販売公団のみが輸出できる。実綿、綿花、綿糸、綿布、衣料品は輸入禁止である。輸入関税にはエスカレーションタリフが用いられており、原料は6.6%、中間加工品は7-15%、スペアパーツは29%、完成品は35%、贅沢品は75-280%である。海外直接投資は実綿栽培、コットンジーンズは禁止されている。綿紡績は、民間がその糸を用いて織物、織物にして販売、輸出することという条件で許可される。シリアはアラブ諸国及びヨーロッパ・地中海諸国という2つの地域自由貿易計画があり、それぞれ2007年又は2010年までにこうした規制を廃止し、関税をゼロにしなくてはならない。

シリアの繊維産業は、WTO 繊維協定の束縛が無いので他の輸出国に比し有利であるが、2005年には繊維規制が完全に自由化されるので、この比較優位はなくなってしまう。シリアの繊維産業は2005年までに国際競争力を強化しなくてはならない。

3.8 金融

小切手の発行、信用状の開設先立って、支払者の当座勘定に預金を強制的に積みせることで小切手決済の安全が担保されてきた。信用状開設の預金は高く、民間は 105%、国営は 100%である。

国民は銀行に預金しようとしなない。株式、債券市場はない。国家財政は国営企業の設備資金を供給する。民間は、家族の貯蓄で事業を開始している。シリアは輸入金融を輸出業者の信用に頼っている。

強制的預金の高コスト、構造的な資金不足は大きな問題である。

3.9 輸出促進

アジアでは政策と法制によって輸出促進を強化している。しかしシリアには輸出振興策といったものがなく、輸出へのインセンティブがない。

3.10 外資導入振興策

シリアは法令第 10 号 (1990 年) によってシリア人、外国人による投資を奨励しているが、繊維産業では期待したほどの成果をあげていない。1 つには潜在的な戦争の恐れがある。外国資本は、種々の観点から投資国を決定している。カントリーリスクの評価は 1 つの重要な指標である。シリアは政治的にも経済的にもカントリーリスクでの評価は悪い。

3.11 国営企業の収益性

現在、シリアの国営企業は国家財政への納入が支出を上回っている。しかし、繊維は問題である。コットンジーニングは 1997 年は赤字に陥るであろう。繊維公団では赤字企業の数が増えている。24 社中 11 社が赤字である。いくつかの企業は生き残れるが、多くの企業は問題である。

3.12 工業への行政機能

工業省は国営企業による食品、砂糖、エンジニアリング、化学、セメント、繊維の6分野の事業を監督している。工業省には標準化、生産性、試験研究、職業訓練の4つの付属機関がある。本省のスタッフはわずかに155人であり、政策機能が非常に弱い。

繊維公団は工業省の6つの公団の中では最大であり、180人の職員がいる。公団の役割は傘下の国営企業を種々の方法で監督し、調整することである。法制度上は公団は国営企業の中で積極的リーダーシップをとることが期待されているが、この理想は現実には実現されていない。繊維公団は赤字企業の増大を止めることができない。

シリア政府は民間企業に対する情報ネットワークをもっていない。商業会議所、工業会議所がダマスカスとアレppoにあるがこれでは不十分である。

中央統計局(CBS)は毎年Statistical Abstractを発行している。これは重要であるが販売データ、月次データ、分析用具が欠落しており、経済分析にとっては不十分である。法律文書の販売センターがない。経済ニュースや経済政策情報が公表されていない。

3.13 産業政策

シリアは今まで国営企業の投資計画、外国貿易の規制、複数為替レート、工業団地・保税加工区の建設などで工業化を進めてきた。経済委員会は週1回開催され、経済政策問題を討議し、決定している。最近、政府は業種別の国際競争力の調整を開始したが、政策推進の母体がなく、従事する職員が少なく、これらの議論はほとんど公表されていない。

3.14 国家開発計画における繊維産業

第8次5ヶ年計画1996-2000は今なお審議中である。計画数値は1997年末までは修正があるかもしれない。GDPは年6.4%、製造業は9.9%成長するとしている。国内の繊維原料の生産は着実に増大し、コットンジーンズの生産能力は1996年に50%拡大した。(表S3.14-1)

繊維公団は工業省とSPCに5ヶ年計画を提出した。生産、付加価値は5年間で2.3-2.4倍になる。公団は3つの野心的なプロジェクトを推進しており、さらに別のプロジ

エクトを提案している。これらはすべて綿紡績である。綿紡績の生産能力は2000年には倍増する。

一方民間繊維産業は年12%の高度成長が期待されており、民間は生産、投資、雇いでシリアの繊維産業の指導的立場を維持するであろう。

表 S3.14-1 FORECASTS ON SYRIAN TEXTILE INDUSTRY ACTIVITIES

(August 1997)

		1995	1996	1997	1998	1999	2000
		actual	(planned)	(planned)	(planned)	(planned)	(planned)
(Public-GOTI)							
Production	mil.SP	11,220	11,577	16,061	20,278	22,361	26,543
Necessary materials	mil.SP	7,700	7,950	11,043	13,833	15,394	18,465
Value added	mil.SP	3,520	3,626	5,017	6,444	6,967	8,078
Investment	mil.SP	-	2,327	5,951	6,216	5,281	3,062
Employees	number	24,919	24,742	32,323	35,599	36,503	39,986
(Private)							
Production	mil.SP	25,372	28,417	31,827	35,646	39,923	44,714
Necessary materials	mil.SP	20,109	22,522	25,225	28,252	31,642	35,439
Value added	mil.SP	5,263	5,895	6,602	7,394	8,281	9,275
Investment	mil.SP	2,740	3,617	4,775	6,303	8,319	10,982
Employees	number	46,244	51,793	58,008	64,969	72,766	81,498

Source : General Organization for Textile Industry and Ministry of Industry

第4章 繊維産業の現状と問題点

シリアの繊維産業の全体像を28ヶ国からの輸出統計とシリアの統計を基礎に現地調査を加えてまとめた。

シリアの繊維産業は、繊維原料別には国産綿花と輸入合繊からなり、国営・民間企業別では綿花と川上主体（紡績）の国営企業と輸入合繊と綿の川中・川下を主体とする民間企業に分類される。

国営企業は既存の古い設備での生産、品質や顧客を重視する思想にける等の問題点を持っている。一方、民間企業の一部はECや米国への衣料輸出（シリア綿製品、輸入原料の縫製加工）を行い成長している。

国営企業と民間企業は独立に行動しており両者の協力関係がないのが問題である。

4.1 繊維原料

4.1.1 国産繊維原料

国産繊維原料は、綿花、羊毛、絹であり、化合繊は生産されていない。

国内で生産された綿花は全て政府が買い上げ、国営の紡績企業および海外に販売される。綿花は石油に次ぐ外貨獲得源であり、また綿花を原料とした繊維産業も雇用の面で国家として極めて重要である。

政府は綿花栽培農家および国営紡績企業保護のため、綿花、綿紡績糸、綿の布等の輸入を禁止している。また民間の綿紡績への参入を紡・織・染一貫企業にしか認めないなどの措置をとっている。羊毛についても紡績とカーペット製造は国営企業にのみ認められている。

(1) 綿花

綿花の最近の生産量は年間約250千トンであり、約75千トンが国内に投入され、残りが輸出されている。綿花の栽培面積当たりの収率は世界のトップクラスであり、今後の増産は作付け面積の増加、灌漑の整備によって達成される。ある綿花の専門家は2010年の綿花生産量は最大275千トンと予測している。

シリア綿花の品種としては、Aleppo 33/1、Aleppo 40、Rakka 5、Deir Ezzor 22 等がある。この中では Aleppo 33/1 が品質的に最も優れており 40-50 番手の細い糸まで生産可能である。この品種は主として国内の良質紡績糸の原料として使用されている。

CIF 北欧価格は近隣のギリシャ、トルコ、パキスタン、アフリカ綿より高いか同等であり品質的にもこれらと同等の評価を受けていると判断される。

(2) 羊毛

羊は 6 百万頭 (12 百万頭との資料もあるが) いるが羊毛採取用の品種ではない。そのため、国産羊毛は輸入羊毛に 20% 程度混ぜてカーペット等として使用されている。原毛の生産量は greasy wool で 5,000 トン/年 (washed wool で 2,750 トン/年)、国内向けの投入は約 1,200 トン/年であり、残りは輸出されている。

(3) 絹

生産量は減少しており、現在は 3 トン/年程度である。減少の理由は国産品のコスト高である。

4.1.2 化合繊

合成繊維、再生繊維等の化合繊は全て輸入されており、その消費量は綿よりも多くなっている。化合繊は現在国内では生産されていないし将来の生産計画もない。シリアでは、合繊原料の生産も行われておらず、国内需要も少ないので、当面化合繊の生産が行われる可能性は少ないと推定される。

4.1.3 繊維企業の全体像

4.1.3.1 国営企業と民間企業の活動分野

繊維産業の原料別、輸出入別、企業別 (国営・民間)、工程別 (紡績・織布・ニット・染仕上・縫製) の全体像は (図 S4.1-1) のようである。この図は 6 章の需給予測を行うにあたりまとめたものである。具体的には次のような統計資料に基づき作成した。

- 繊維産業への国内原料投入量 : シリアの統計
- 輸入量 : シリアへの繊維輸出国の統計（先進国 23 か国、韓国、台湾、トルコ、シンガポール、香港の合計 28 ヶ国）
- 輸出量 : シリアの輸出統計
- 国営企業と民間企業の繊維加工分野 : 国営企業の活動分野は十分調査したのでそれ以外は民間とした

詳細については、6 章および付編 ANNEX-3 を参照下さい。

図 S4.1-1 に基づきシリアの繊維産業の全体像を説明すると次の様になる。この図は 1996 年時点を推定して作成したものである。なお、ここで言う合繊には再生繊維であるレーヨンを多少含む。

(1) 国産繊維原料

国産綿花が年間約 25 万トン生産され 1/3 が国内向け 2/3 が輸出されている。羊毛（washed wool）の生産量は年間約 3 千トンで少ない。合繊は生産されておらず全て輸入されている。

(2) 輸入合繊

年間約 8 万トンが輸入されている。その 80%がフィラメント糸（FY）であり、残りがステープル（SF）である。ステープルの約 70%はアクリルである。したがって、ポリエステルステープルの輸入量が少なく、綿とポリエステルとの混紡品の生産は少ない。また混紡布の輸入も少なく、FY が好まれる市場になっている。

ポリエステル POY を輸入し、嵩高加工糸 DIY（Draw Textured Yarn）を生産している企業もある。

(3) 綿紡績

綿紡績は国営企業が主体であり、民間は紡績・布・染色の一貫企業にしか認められていない。国営企業は綿花の輸出でなく少しでも付加価値をつけて輸出するため、綿紡績設備を積極的に新設している。

民間の最大手は Sabbagh and Sharabati でありジーンズ用の紡績・織布・染色を一貫で近代的な設備で行っている。

(4) 織布・ニット

織布・ニット工程における合繊の比率は綿より大きい。織布とニットの比率は十分把握出来ていないが、ニットの方が大きいと推定される。

国営企業の綿織布生産量は 15,000 トン/年程度あるが、一般衣料用ではない厚手物が約 50%を占めている。

民間の織布では Sabbagh and Sharabati のジーンズ用の織布能力が約 10,000 トン/年で大きい。

合繊 FY の織布も Aleppo の Klaseh Industry Zone 等で活発に行われている。

ニットは民間で盛んに行われ、綿衣料輸出が行われている。

(5) 染色・仕上げ

民間企業の生産能力が国営企業より圧倒的に高い。合繊の染色仕上げはほとんど民間企業で行われている。アレppo、ダマスカスに多数の委託加工の染色・仕上げ企業がある。プリントを行う企業も多数あると言われる。これらの企業には合繊用の高圧・高温染色設備を備えているところも多い。合繊用の糸染め設備もある。

(6) 縫製

民間企業の縫製生産能力は国営企業より圧倒的に高い。大手の民間縫製企業は次の三つに分類できる。

- シリア綿を使ったニットの着、T-シャツ等製造
- シリア綿を使ったジーンズの製造
- 輸入布及び副資材を原料にした縫製企業

上記の分類の中でジーンズ以外は輸出比率が極めて高く、国内には販売していない企業すらある。輸出先は、西欧・米国・周辺諸国などである。特に衣料輸出

を行っている会社は生産設備の増設、工場の新設等を行っており、事業が急激に成長している。

以上の状況をまとめると次の様になる。

	国営企業	民間企業
原料	国産	輸入
繊維	綿花主体	合繊 綿（合繊の方が多）
加工工程	川上（紡績主体） 織布・ニット・染色仕上げもあるが民間より小さい。	川中・川下 （ニット・織布・染色仕上げ・縫製）
輸出	ほとんどなし （綿紡績糸を一部輸出しているのみ）	綿の衣料 縫製加工輸出
雇用数・売上	民間より小さい	国営より大きい

4.1.3.2 繊維素材別の繊維産業像

図 S4.1-2～7 に繊維素材別の繊維産業像（1996 年時点を推定）を示す。なお、ここで言う合繊には再生繊維であるレーヨンを多少含む。

(1) 綿（図 S4.1-2）

紡績糸の生産量は国営企業 53、民間企業 10、合計 63 千トン／年程度と推定される。紡績までは国営が主体であるがそれ以降は民間の生産比率ははるかに大きくなる。紡績糸の輸出は 1996 年時点では Hama Cotton のみが行っていただけであるが、1997 年に入り Lattakia Spinning が稼働し現在は 10,000 トン／年程度の輸出をしていると推定される。

シリア綿を使った衣料輸出（下着、T-シャツ等）も行われており成長している。綿製品の国内消費量は約 46 千トン／年と推定される。

(2) 合繊フィラメント糸 (FY) (図 S4.1-3)

合繊 FY の輸入量は約 50 千トン/年であり、極めて大きく、大部分が民間企業で加工されている。国営企業でも一部輸入 FY を使って嵩高加工糸 DTY の生産を行っている。

用途の主体はニットであるが、民族衣装用の織布がアレppoの Klaseh Industry Zone でジャカード織機により約 6 千トン/年の規模で生産が行われている。

合繊 FY 製品の国内消費量は約 41 千トン/年と推定される。

(3) 合繊ステープル (SF) (図 S4.1-4)

合繊 SF は約 27 千トン/年輸入されているが、その約 80% が紡績糸であり、民間企業で加工されている。国営企業での合繊混紡糸の生産は約 2 千トン/年と少ない。そして、輸入の合繊紡績糸の約 70% はアクリル糸である。

合繊 SF 製品の国内消費量は約 23 千トン/年と推定され合繊 FY の約 1/2 である。

(4) 羊毛 (図 S4.1-5)

国産羊毛は繊維用途に適さないため、輸入羊毛に約 20% 程度混ぜてカーペット等として使用されている。

羊毛の国内消費量は約 2 千トン/年と推定される。

(5) 綿と合繊 SF (図 S4.1-6)

綿と合繊 SF は同じ加工工程を流れることが多いのでまとめて示す。布段階での加工量は約 86 千トン/年である。

(6) 合繊 FY と SF (図 S4.1-7)

合繊 FY と SF を合計すると布段階での加工量は 71 千トン/年になり綿 62 千トンより多い。内訳は FY 70%、SF 30% である。大部分が民間で加工されている。

布、衣料の輸出も行われている。

合繊 FY と SF 合計の国内消費量は約 65 千トン/年と推定され、綿 46 千トン/年より多い。

4.1.3.3 国営企業の動向

(1) 設備・生産能力

国営企業全体の紡績、織布、ニット（下着）、染色、羊毛紡績、カーペット工場の設備・生産能力をまとめ ANNEX-9 に示す。

(2) 問題点

ソ連・東欧への輸出を行っていた時代は質より量の時代であった。ソ連・東欧の崩壊により輸出市場が喪失し、今後は量より質の市場に進出する事を余儀なくされている。それにも拘わらず、品質や生産効率を重視した経営を行っている企業が少なく大きな問題である。要員が多いのも大きな問題である。古い設備が多いのも事実であるが、設備を全て新しくすれば全ての問題が解消するということではないのは明らかである。3章でも述べたように制度上の問題も多い。

(3) 企業間でのばらつき

しかし、国営企業の中にも古い設備を使って、すばらしい工場管理を行い、良い品質の紡績糸を生産し、国内・海外の顧客から高い評価を受けている企業がある。一方で、工場管理から品質まで問題点だらけで、在庫の山を築いている企業もある。同じ国営企業でもばらつきが極めて大きい。この原因は、工場立地に基づく労働力の質、労務管理の難易度、管理者の能力等によると推定される。

(4) 新鋭紡績工場

国営企業は綿花そのもので輸出するのではなく、少しでも付加価値をつけて輸出すべく、輸出を目標に新鋭紡績工場の建設を推進している。Lattakia の工場は操業を開始し、Idleb の新工場も近く操業を開始する予定である。さらに、Jableh と Lattakia の 2 次、Tartus の三つのプロジェクトが計画されている。

(5) 2000 年時点での綿紡績糸の生産・輸出・国内消費

これらのプロジェクトが完成した 2000 年時点での綿紡績糸の生産・輸出・国内消費の関係（図 4.1-8）を見ると、綿紡績糸の生産量は現在の約 2 倍になり、紡績糸か衣料の輸出が増加する事になる。しかし、紡績糸を輸出する事には経済性と

国全体の繊維産業の振興と言う点から問題がある。6章で詳細に述べるように繊維貿易は衣料の比率がますます増加している。シリアとしても人件費の安さ、西欧という市場に近いという立地の優位性を活かして衣料輸出を伸ばすべきである。

(6) 国営・民間と一体となった繊維産業の発展

新紡績工場の建設により、品質の良い紡績糸が民間に多量に供給され、民間がニット・織布・染色仕上げ・縫製の分野を拡大して、最終的に衣料輸出が伸びるというシナリオがシリアの繊維産業の発展にとって望ましいものとなろう。国営企業は国営企業だけのことを考え、紡績糸での輸出を計画するのではなく、国営と民間が一体になった繊維産業の発展を考えるべきであろう。

4.1.3.4 民間企業の動向

(1) 川中・川下主体

今後シリアの繊維産業が輸出産業として発展するためには川中・川下分野を担当する民間企業の拡大・発展が絶対の条件になる。

(2) 立派に経営されている企業が多い

訪問した民間企業は大手企業が多かったが、国営企業と比較し、余分な要員がおらず、設備は新しく、明らかに活力があった。“5S”もしっかりしており、品質第一の思想の下に立派に経営されている企業が多い。

(3) 綿衣料品・縫製品輸出が成長している（西欧、米国向）

衣料品輸出では国産の綿を使いニット衣料の輸出で成長している企業や、輸入材料の縫製による縫製品輸出で成長している企業もある。いずれも輸出先は西欧・米国・周辺諸国等である。米国輸出を専門にしている企業もある。これらの企業は生産能力の新設・増設を行っているところが多く、活力もあり、今後ますます輸出を増やして成長するであろう。

(4) 依託染色加工企業が多い

委託による染色企業も多くあり、合繊用の高温・高圧の染色設備も十分に普及している。

(5) 訪問企業概要

民間の繊維産業の状況はGOTIも把握しておらず、第1次現地調査では民間企業の状況を十分把握出来なかった。第2次現地調査では事前に外国の染料会社から情報を得たり、Chamber of Industryの協力を得て、訪問先を選定する事が出来、ようやく繊維産業の全体像を把握することが出来た。

調査団が訪問した民間企業は比較的大手企業であった。訪問した34社は次の様に分類できる。(表4.1-1)

1) シリア綿の下着、T-シャツの輸出企業

紡績糸はLattakiaやHama紡績工場で生産される高級綿紡績糸を使用している。

2) 輸入材料を使った縫製品輸出

紳士用のスーツ、ズボン、シャツ、婦人下着、子供服等である。

3) 委託加工の染色企業

アレppoやダマスカスには多くの委託加工染色企業があり、そのほとんどは合繊の布・糸の染色が可能な設備を持っている。

4) ジーンズ製造

Sabbagh & Sharabati社は近代的な紡績・織布・染色のジーンズ一貫生産設備を持ち、ジーンズ用の布を国内販売用に生産している。同社以外にもジーンズ用の織布、染色を行っている企業やジーンズの販売を大々的に行っている企業があり、ジーンズはシリアでは大きな市場を形成している。

5) その他

アクリル毛布 (Sabbagh)

ベルベット (Sabbagh)

ポリエステル不織布 (Rankoushi & Dakkak)

DTY糸製造 (Modern Ind. & Commercial)

合繊FY織布 (Klaseh Industry Zone)

タオル (Abu Shaar) である。

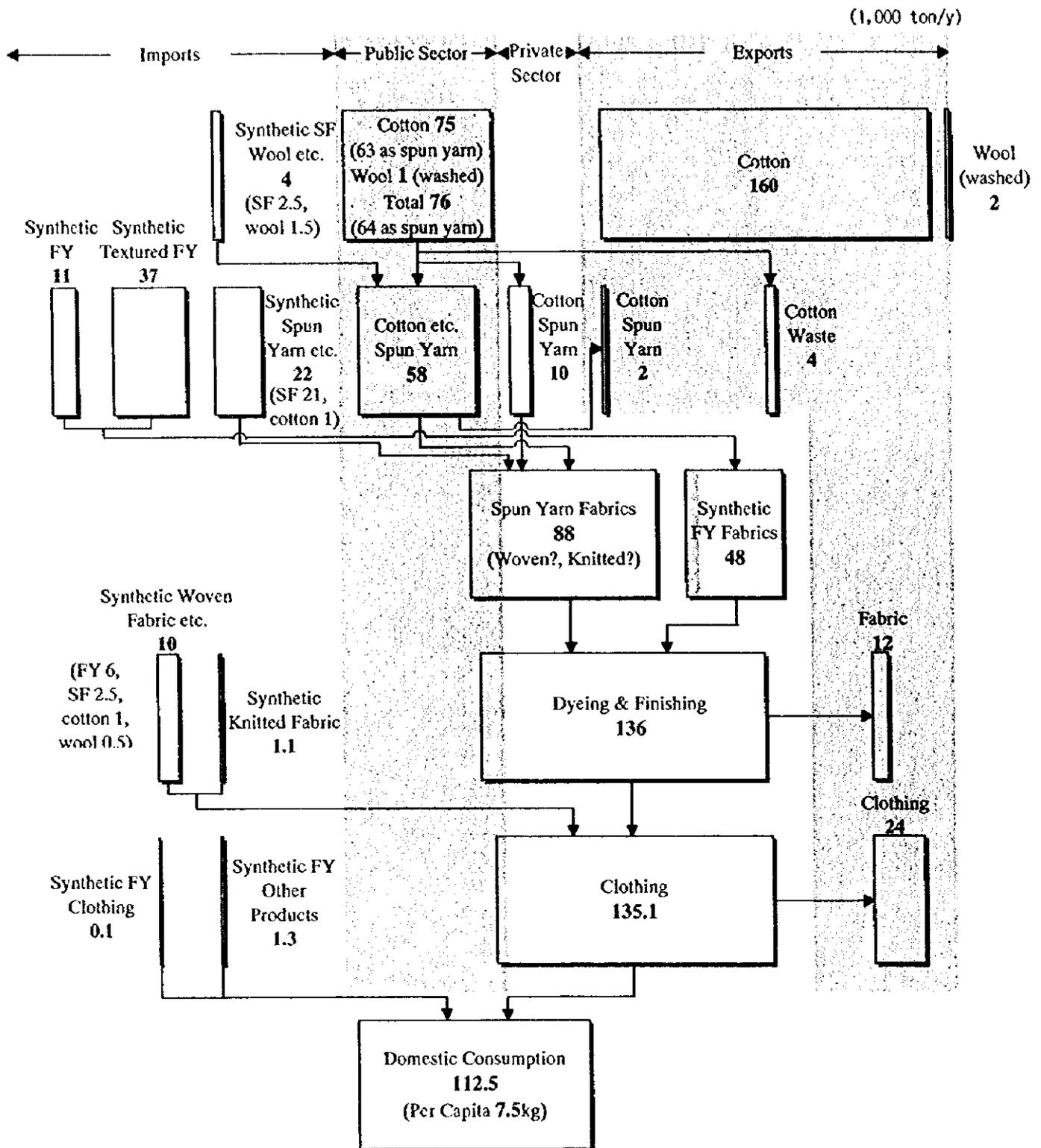
4.1.4 GOTI（繊維公団）開発5ヶ年計画（ドラフト）(1996-2000)の概要

表題のドラフトは ANNEX-7 に添付した。なお、この開発計画は国営企業のものだけであり、民間企業を含んだ国全体の計画は作成されていない。また、各々の表に記載された数字に不一致がある。概要のみを把握する事としたい。なお、このドラフトは本調査団の報告書によって変更されることがある。

表 S4.1-1 LIST OF THE PRIVATE TEXTILE COMPANIES VISITED

Name of the Company	Fibers used	Products
Chebib Brothers	Syrian Cotton	Knitting, Dyeing, Garment
Bawadekji Tex. Co. Ltd.	Syrian Cotton	Knitting, Garment
Kouefati	Syrian Cotton	Dyeing, Garment, Sales of Jeans
Habi Tex	Syrian Cotton	Knitting, Dyeing, Garment
Syrian Cotton Development	Syrian Cotton	Knitting, Baby's Garment
Industry and Commerce Tissues	Syrian Cotton	Knitting, Garment
Sabbagh & Sharabati	Syrian Cotton	Cotton Spinning, Weaving, Dyeing for Jeans
Khalil and Tujjar Comp.	Syrian Cotton	Knitting, Garment
Abdel Abu Shaar & Son.	Syrian Cotton	Terry Towel
Balalo	Syrian Cotton	Weaving, Dyeing for Denim
Omanzino and Children Co. (Klaseh Industry Zone)	Polyester filament (jacquard)	Weaving
Mohamed Ahmad Hilal and Children's Co.	Polyester filament (jacquard)	Weaving
Samarli & Hamammi	Commission dyeing	Dyeing
Al-Fourkan	Commission dyeing	Weaving, Dyeing
Khodair and Bibi, Company	Commission dyeing	Dyeing (yarn)
Khouhaz Dyehouse	Commission dyeing	Dyeing (yarn)
Shamtex	Commission dyeing	Dyeing
Bahra & Co.	Commission dyeing	Dyeing
Modern Co. for Dyeing and Finishing	Commission dyeing	Dyeing
SEEMA Dyeing and Finishing	Commission dyeing	Dyeing
Sabbagh	Acrylic	Blanket & Velvet
"adidas", RIAD SEIF, MAJED ZAYED & SONS	Imported fabrics	Garment
SAFE BROS.	Imported fabrics	Garment, Suits, Shirts, Children's
Abdel Ahad Bros.	Imported fabrics	Garment, Suits
Assia	Imported fabrics	Garment Men's suits, pants, shirts
Asseel Co. for Industry and Trade	Imported fabrics	Garment, Lady's underwear
"Benetton", (Amal Samha Co.)	Imported fabrics	Garment
Anas Economic Establishment Co. (former name Kalas)	Syrian Cotton Imported fabrics	Garment, Jeans Garment, Men's & Ladies' suits
Lord (Hamwi & Kalai Co.)	Imported fabrics Domestic fabrics	Dyeing, Garment, Jeans
Adel & Hassan Hassanein	Wool, Silk	Gowns, Trousers
Arab Fancy Gowns-Abaya	Cotton, Synthetic	Weaving, Arab gowns
Rankoushi & Dakkak	Polyester	Non-woven fabrics, polyester
Modern Ind. & Commercial	Polyester	Texturizing
Wail Y Tabbaa	Polyester, Nylon	Texturizing, Curtains, Ladies underwear

S4.1-1 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF TEXTILE INDUSTRY (1)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

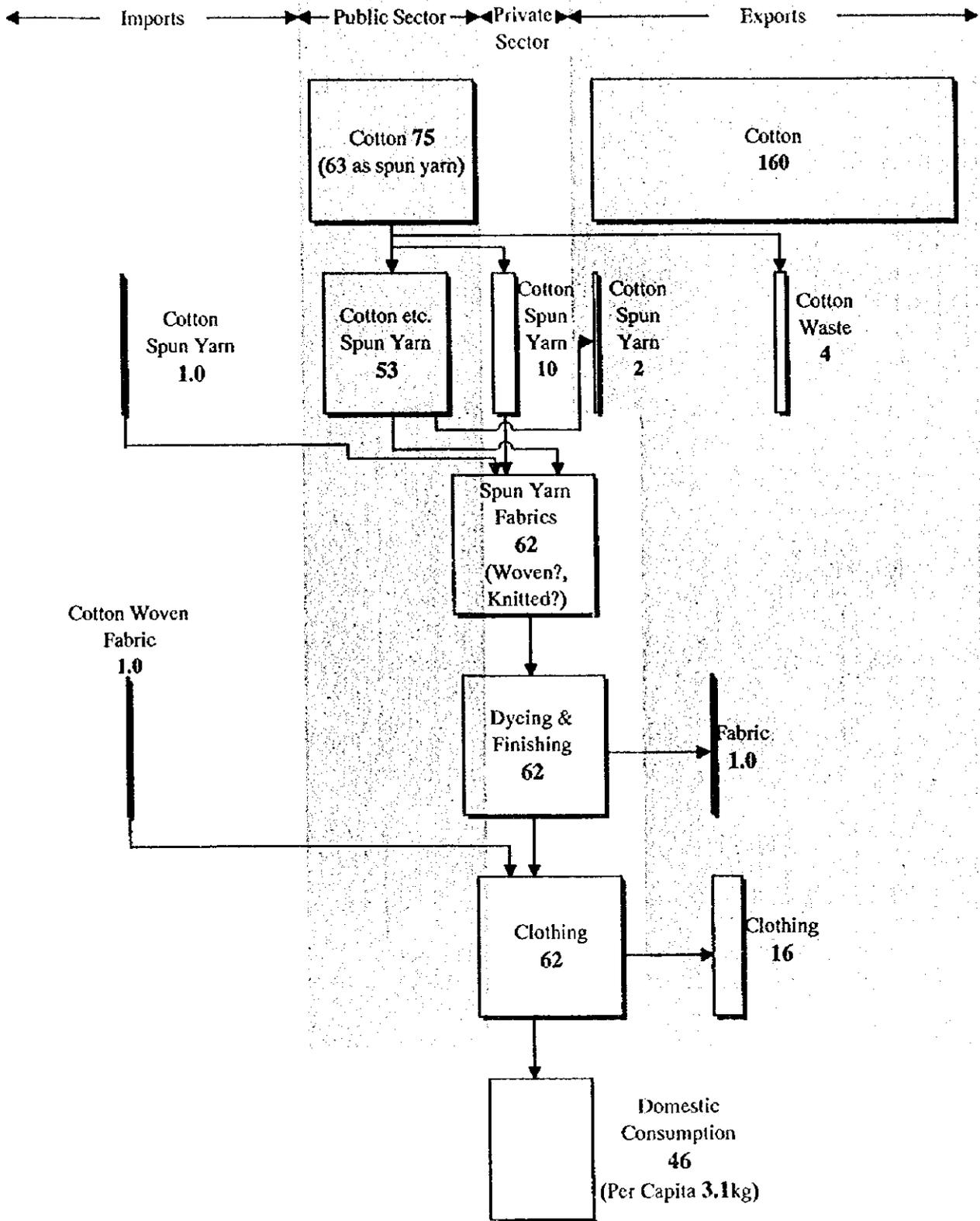
Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

图S4.1-2 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF COTTON (2)

(1,000 ton/y)



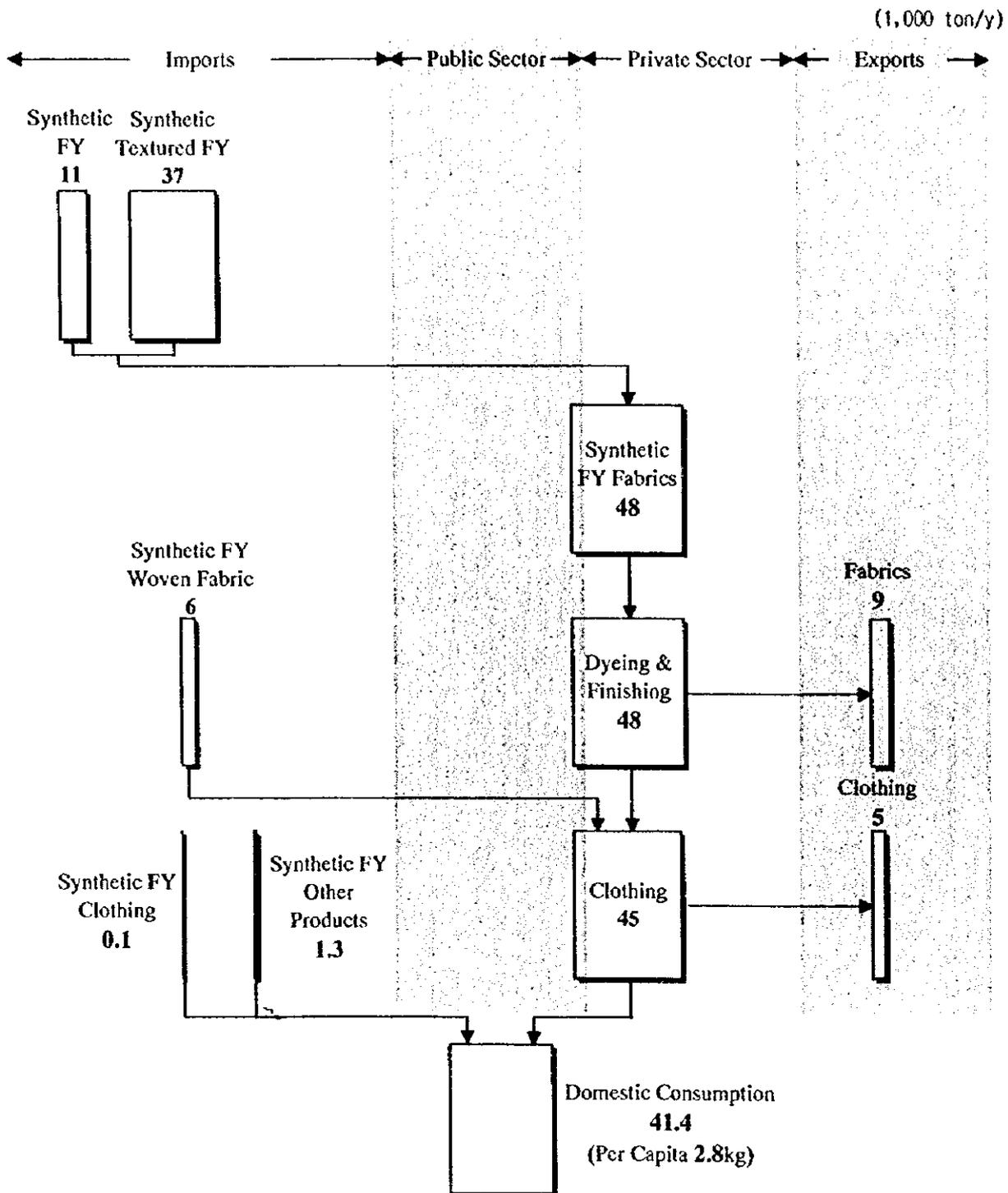
Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

FIG. S4.1-3 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF SYNTHETIC FY (3)



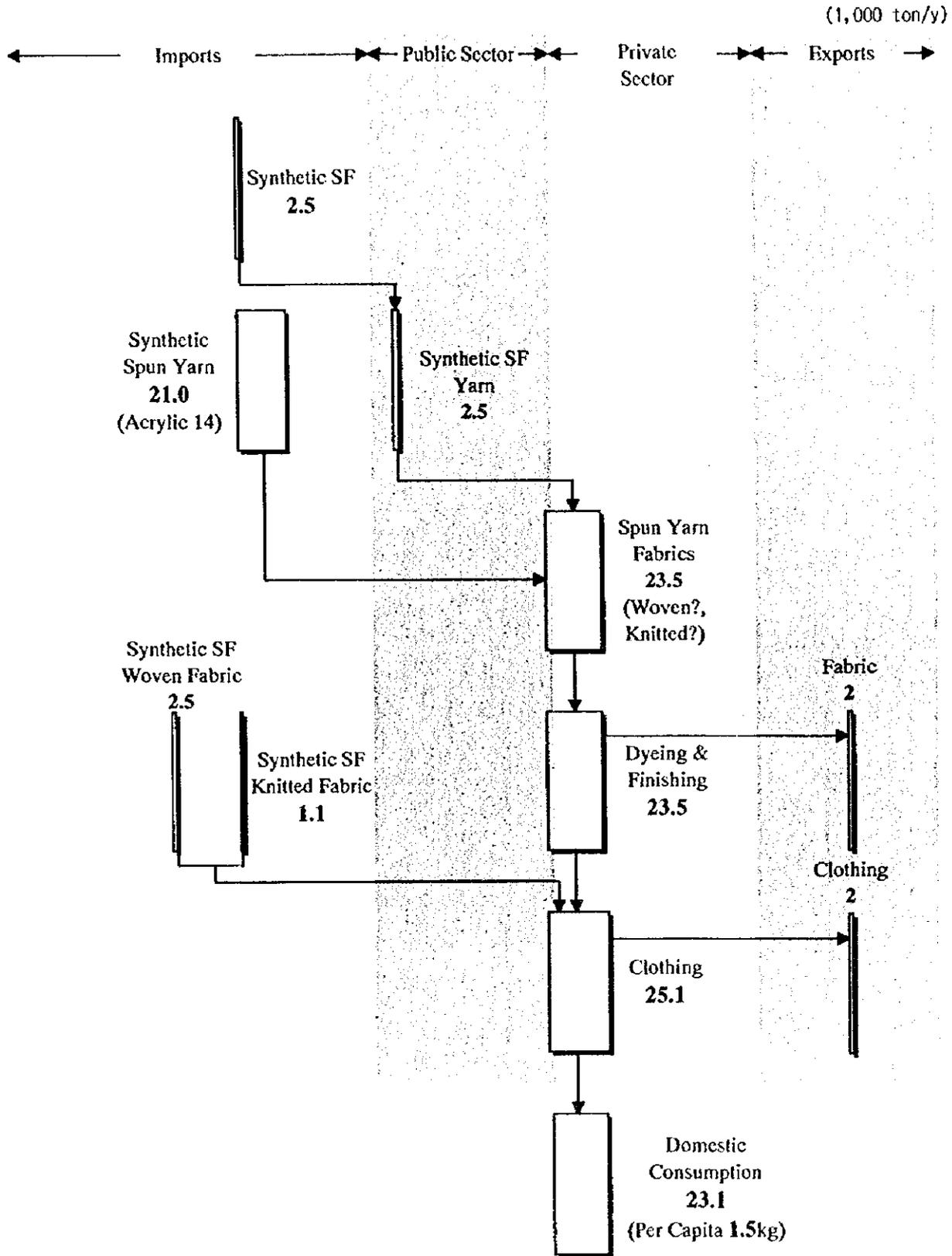
Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

图S4.1-4 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF SYNTHETIC SF (4)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

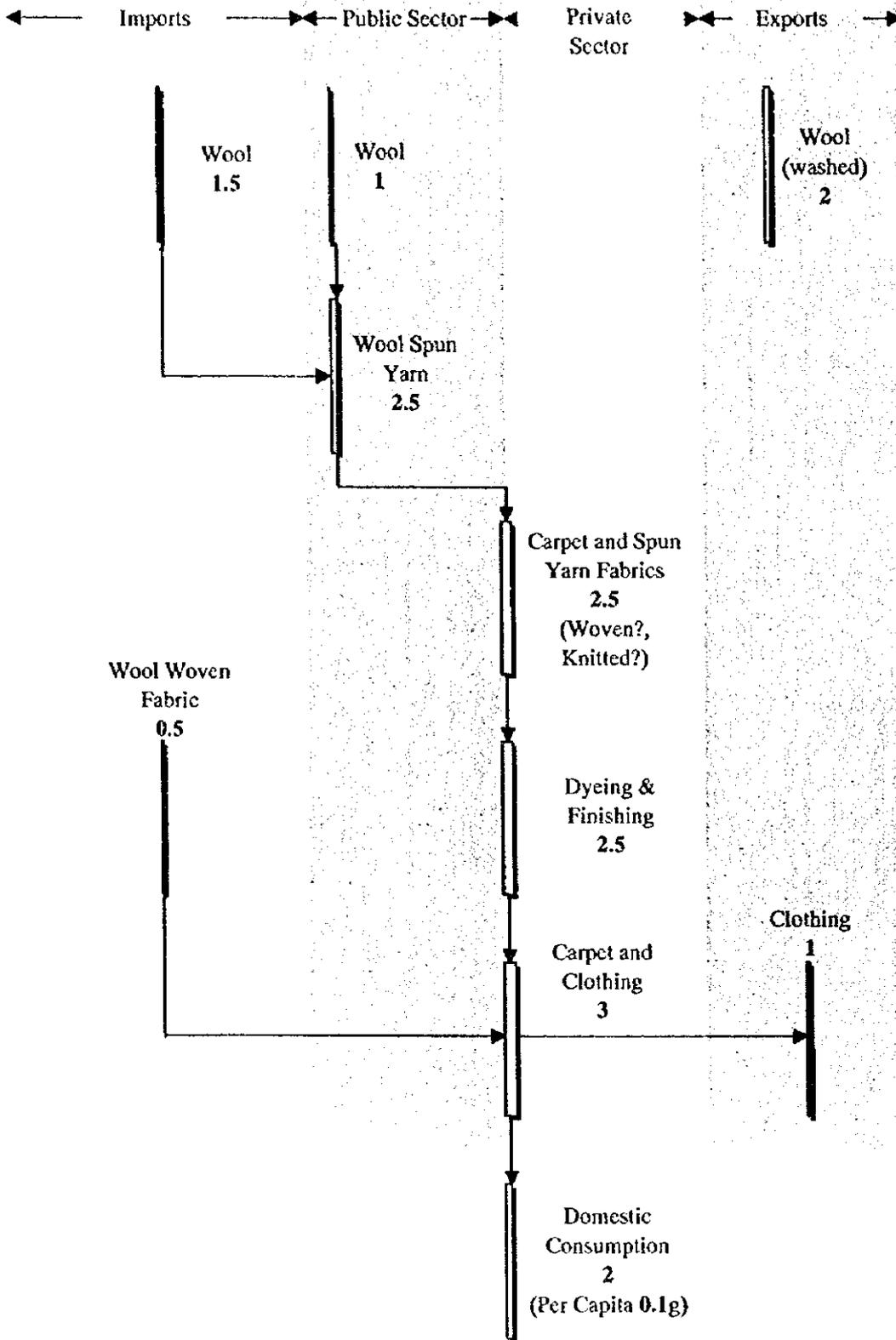
Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

☒ S4.1-5 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF WOOL (5)

(1,000 ton/y)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

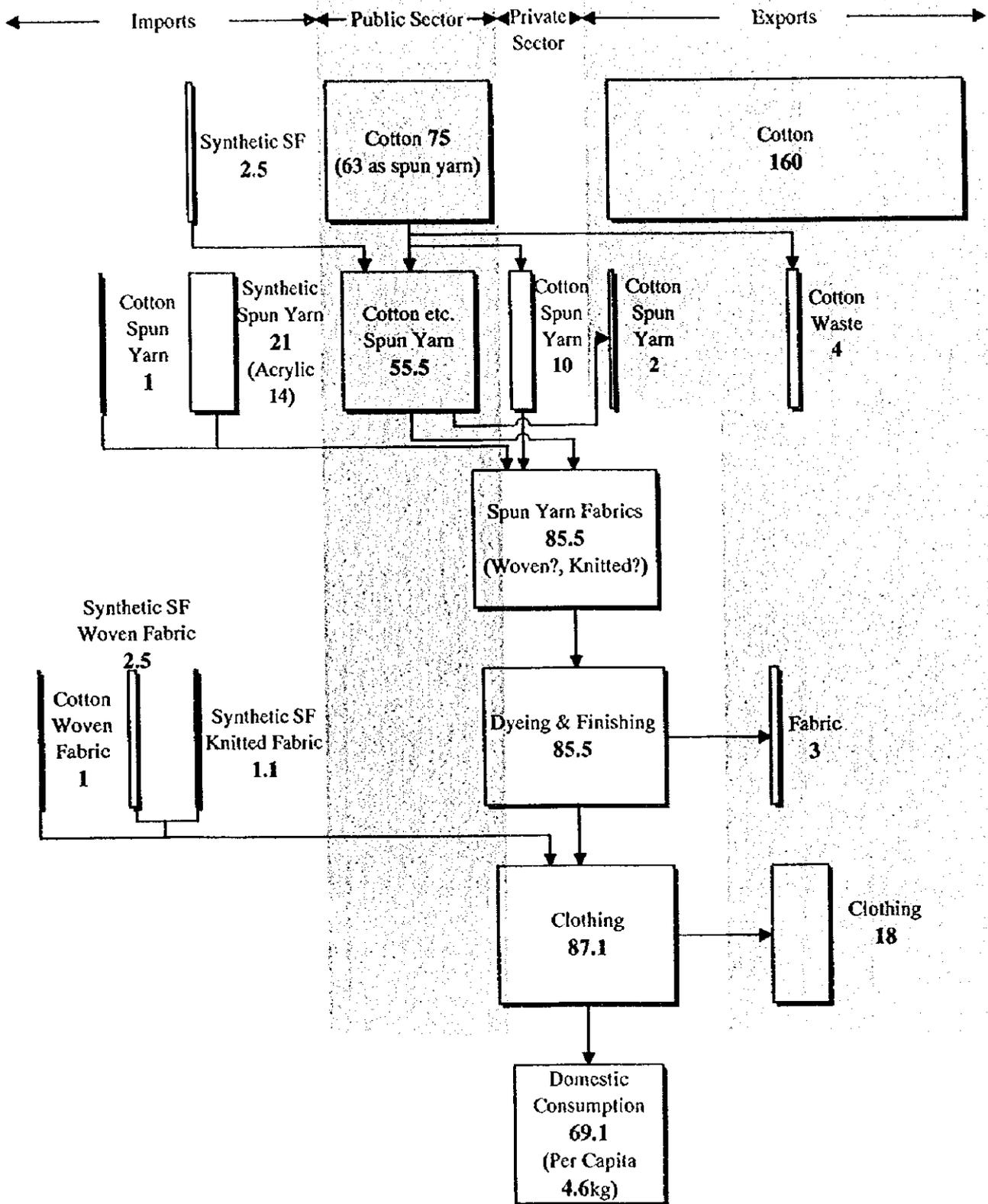
Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

图S4.1-6 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF COTTON AND SYNTHETIC SF (6)

(1,000 ton/y)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

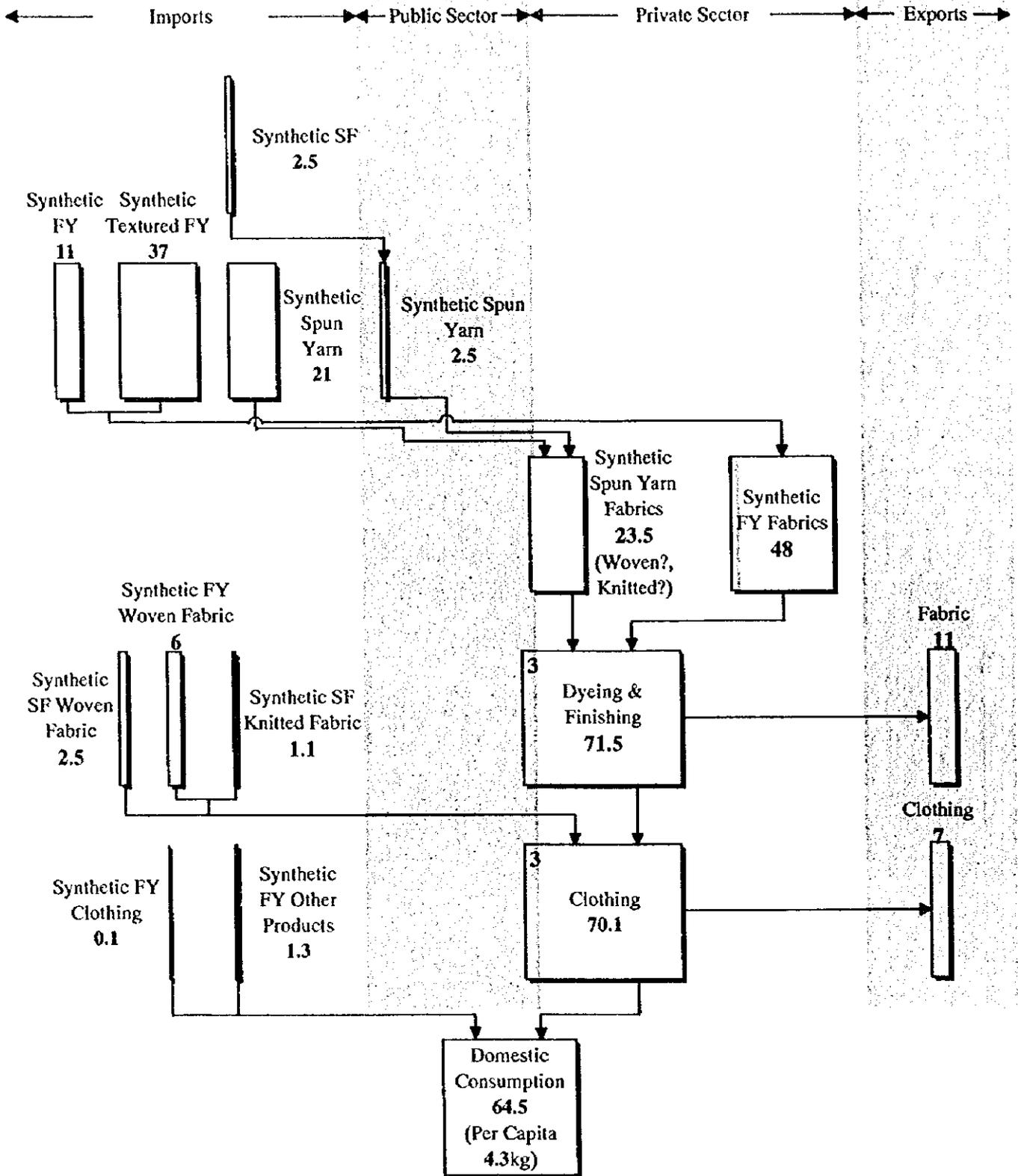
Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

S4.1-7 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF SYNTHETIC SF AND FY (7)

(1,000 ton/y)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

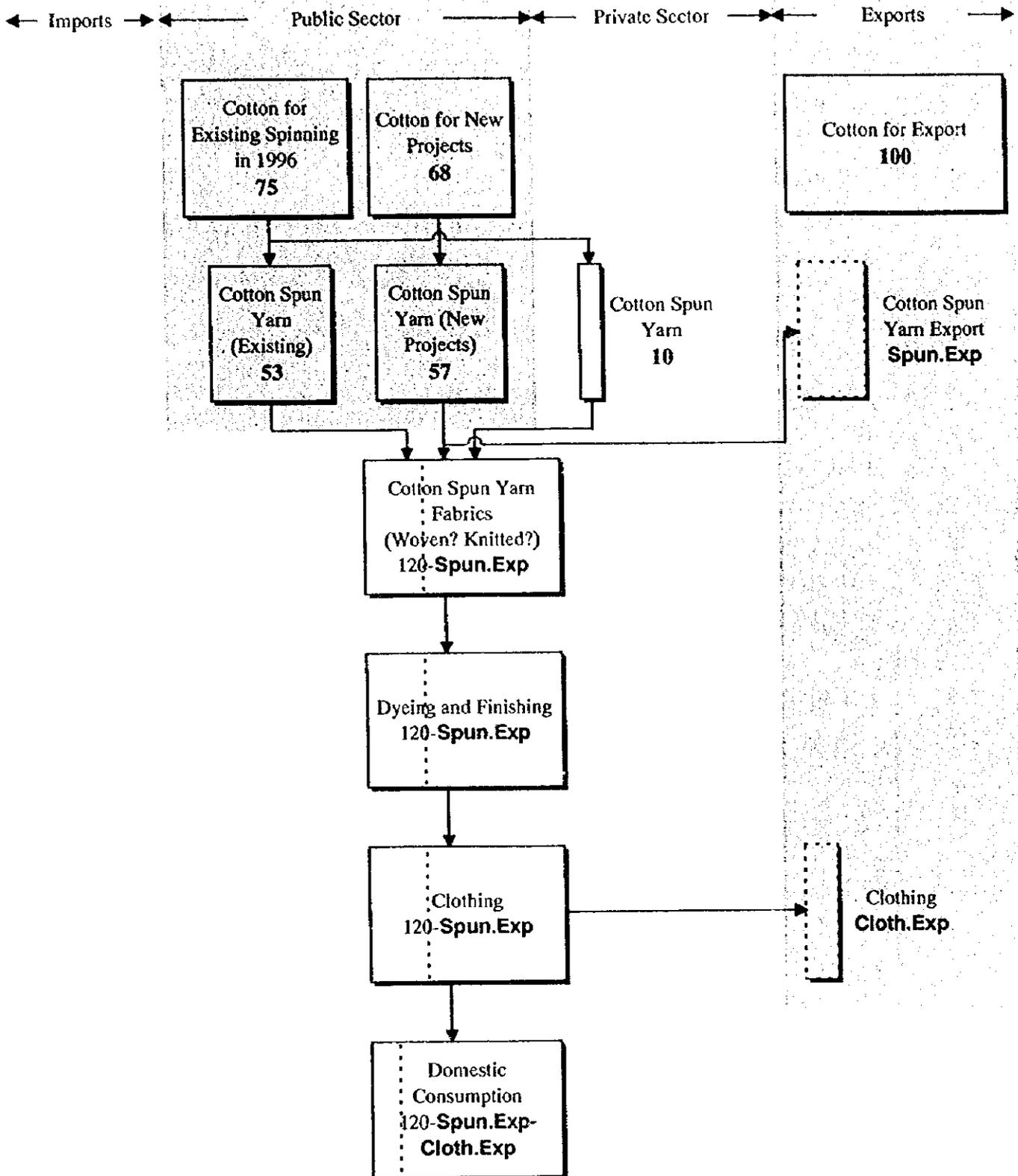
Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

FIG 4.1-8 PRODUCTION, IMPORT AND EXPORT OF COTTON in 2000

(1,000 ton/y)



Source : Import of textiles to Syria based on exporting countries statistics

Note : 1) "Synthetic" includes small quantity of rayon.

2) The figures are shown approximately in "Fiber equivalent" not actual weight.

3) The figures are the estimate as of 1996.

4.2 国営繊維企業の現状と問題点

4.2.1 国営繊維企業全般

4.2.1.1 国営繊維企業の現状

国産繊維原料としては綿、羊毛、絹がある。国営繊維企業の活動の主体は綿紡績であり、その活動分野と動向についての詳細は 4.1.3 参照のこと。

4.2.1.2 国営繊維企業の問題点

企業によって多少の違いはあるが、国営企業は概して次のような問題点を抱えている。

- 1) 設備の老朽化
- 2) 生産性、品質の欠如
- 3) 販売力の弱さ（特に輸出）
- 4) 優れた労働力の欠如
- 5) 生産・経営管理能力の不足。

設備の古さでは紡績、織布、染色が深刻で、16 社中新プロジェクトが完成した Lattakia Spinning を除いて 15 社が、部分的更新は少しずつ進んでいるものの、何らかの設備更新の必要に迫られている。

設備が古い操業に欠かせない補充部品の入手が困難であり、部品内製による対策にも限度があり、生産性の低下に結びついている。設備の古さは同時に生産技術の古さを意味しており、現代の生産技術がビルトインされた新鋭設備と比べて生産性、品質ははるかに劣る。例えば綿では、シリア原綿の特性から、製品には衣料用途でも裾物、下級品が多いこと、また非衣料分野では穀物用袋などで品質が云々されることが少ないものが多い。そのために、品質の重要性に対する認識、品質マインドが醸成されないという土壌である。

品質レベルを高めるには、まず基礎となる SOP や QC、TQC などの品質管理手法のマスターが前提で、漸次 ISO シリーズを導入や国としての品質規格などの整備も必要である。

国内販売では民間への販売より政府機関、国営企業への販売が多いこと、輸入禁止、輸入制限などで売り手市場であること輸出が少ないために、常に国際競争に曝されている繊維輸出国が持つ安定品質、強固な販売体質とマーケティング力がシリアには少ない。このため、クレームもあまりないので、品質マインドが育たない。このことは、繊維産業が輸出に活路を見いだそうという時に致命的になる。

優秀な従業員の確保という点では、国営企業は賃金規則などに縛られるため、優秀な従業員確保に投資を厭わない民間企業にかなわない。特に民間企業が集中するアレppo地区でこの問題は深刻である。また、ハッサケやデリゾールの農作地帯では農業収穫期に必要なワーカー数が確保できないという問題がある。

数々の理由による国営企業の問題点を積極的に打開して行こうというトップ・管理層の人材に乏しい。旧式の機械なのに管理能力で優秀な品質の製品を作っている例（Hama Cotton Yarn Co.）を見習うべきだ。

4.2.2 国営綿繊維企業

主体は綿紡績であり、川上主体（綿紡績）に、せいぜい川中までに展開している。既存の綿・化合織短繊維関係は次の18企業である。他に、ほぼ完成し、企業化される予定のプロジェクトが1つ、入札評価済みの予定プロジェクトが2つある

国営企業は綿紡績事業を独占している。民間企業体は紡織・編・織染色の一貫か綿と合織の混紡には進出できる。民間企業体としてはアレppoに Sabbagh and Sharabati, Deiry Tex 等がある。織布、染色の川中企業も紡績に続く一貫工場の中に持っている程度で、ニット・縫製業もわずか4社のみで、国営の特徴は主として綿花主体の川上に展開しているということである。ニット、織布、染色、縫製は民間が主体であると言えよう。

4.2.3 国営羊毛繊維企業

羊毛紡績と羊毛カーペット製造は国営企業のみ認められている。羊毛以外の素材使用のカーペットは民間の進出が認められており、民間のカーペット製造業者は15社ある。シリア原毛は高級な毛織物には向かないため、婦人スーツ、紳士服などの製造・販売は輸入素材を使った民間企業が大部分を占めているのが実状である。

4.2.4 国営絹繊維企業

生糸生産工場は国営の Draikeesh Natural Silk Company 一社のみで、日本から蚕の卵を輸入して農家に販売し、出来た繭を農家から買とり、生糸を生産して国内で織物用などに販売している。

1997年3月の調査団が持ち帰った不作為抽出見本の日本における検査結果では平均織度が49デニールであり、用途はカーペット用と思われる。又、節が多く、輸出できる品質ではない。

4.3 民間繊維企業の現状と問題点

4.3.1 民間企業の活動分野

国営企業と民間企業の活動分野については4.1.3.1に記載したとおり、民間は輸入合繊と綿主体に、ニット・織布・染色仕上げ・縫製の大きな部分を担当しており、西欧・米国・周辺諸国への衣料輸出も行っている。雇用数も売上額も国営企業より大きい。

4.3.2 民間企業の活動状況

民間企業34社を訪問したが、品質第一の経営理念のもとに立派に経営されている企業が多く、その活力の強さを感じる。輸出に関しても、輸出先市場の要求、動向を十分に調査し、顧客の要求（品質・価格・納期）を満足すべく自社内の機能を充実させて対応している。また、輸出可能な製品を生産しているため、当然のことではあるが輸出担当者もおり英語力、マーケティング力もある。この点が国営企業との大きな差である。国営企業では輸出出来る製品を生産している会社が少なく、当然輸出担当者もいないことになる。

民間企業を訪問して国営企業との比較において全般的に感じることは次の通りである。

- 要員が少ない。
- “5S” がしっかり行われている。

- 品質管理・設備管理がしっかり行われている。
- きれいで立派な工場が多い。
- 輸出比率が高い。
- 海外顧客との長年にわたって築かれた信頼関係がある。
- 大手企業では立派なレストラン、医務室、モスク、託児所等を備えている。
- コンピュータ化が進んでいる。
- 品質第一の経営理念の下に経営が行われている企業が多い。

この様に民間企業は活力があり、輸出対応も出来ているので、今後シリアの繊維を輸出産業に育成する際に民間の果たす役割は極めて大きい。

4.3.3 民間繊維企業の現状

(1) シリア綿花を原料とした衣料品の輸出（民間）

シリア綿花を原料としてニット製品、ジーンズ、テリータオル等が西欧、米国および周辺諸国に輸出されている。

1) 綿ニット製品輸出（民間）

Bawadekji、Habi Tex、Chebib、Industry and Commerce Tissue や Syrian Cotton Development がシリア綿ニット製品の輸出を行っている。これらの5社の中で最初の3社は染色設備を所有しているが後の2社は所有していない。

輸出先は西欧、米国である。これらの輸出企業は生産の90%以上を輸出している企業が多い。

これらの企業が国内販売に力を入れない理由は、市場規模が小さいことと、一つの取引の規模が小さくその割に代金の回収等の販売経費がかかると言うのが理由である。

2) ジーンズ輸出 (民間)

ジーンズはシリア国内で大きな市場がある。その市場に支えられて、輸出も行われている。Koucfati はシリア綿使用のジーンズを年間1万着周辺諸国(ヨルダン、レバノン、クウェート等)に輸出している。

3) 綿タオル輸出 (民間)

Adel Abou Shaar & Son はテリータオルのメーカーで製品の80%をドイツ、フランス、サウジアラビアに輸出している。

(2) 輸入材料による衣料品の輸出 (民間)

輸入材料(布、副資材)を原料にして衣料を縫製し輸出する縫製品輸出はシリアでは急激に成長しており、多くの会社が増設を行っている。

訪問した会社は、RIAD SEIF MAJED ZAYED & SONS (“adidas”); SEIF BROS. (SEIF 400); Assia; Asseel Co. for Industry and Trade; Amal Samha Co. (“Benetton”); Abdel Ahad Bros.; Hamwi & Kalai Co.(“Load”)等である。

輸出される製品の種類は“adidas”と“Benetton”は非常に範囲が広いが、その他は紳士物が多い。即ち、スーツ、ズボン、シャツ、セーター等である。一部では子供服も輸出している。

唯一の例外は Asseel で、ブラジャー、ガードル、ボディースーツ等の婦人ファッションを専門に生産し約40%をEUに輸出している。

(3) 綿紡績・織布・染色一貫企業

Sabbagh and Sharabati は民間の綿紡績・織布・染色(ジーンズ用)の一貫企業である。1995年に生産を開始したこの工場の生産設備はシリアで最も近代的で自動化された綿紡績・織布・染色設備である。

(4) 加工系 (Textured yarn)

“Modern Industry and Commercial” はトルコ、台湾、イタリアからポリエステルPOYを輸入し約7,000トン/年のDTYを生産している。

(5) ポリエステルFYの織布

アレppoの Klaseh Weaving Industry Zone には織布企業が約 200 社集まり、それぞれが合織用のジャガード織機を 2-8 台持って家族中心に 24 時間操業している。

(6) 染色

アレppoやダマスカスには多くの染色企業がある。そして、委託染色がかなり一般的に行われている。これらの企業は合織用の布染め、糸染め用の高温・高圧染色設備を備えているところが多い。

合織のあらゆる種類（ポリエステル、ナイロン、アクリル、混紡糸等）と布（織物、ニット、起毛品、広幅）が扱われている。糸染め工場で使用される糸はポリエステル／綿の混紡糸が中国、インドネシアから、ポリエステルFYが台湾、トルコ、米国から、アクリル糸は韓国等から輸入されている。

染色品の用途としては衣料用全般の他にカーテン、家具、室内装飾品、スカーフ、タオル、セータ等がある。意外に多かったのが家具、室内装飾品用であった。伝統的な装飾との関係で需要がかなりあると思われる。

輸出先については染色業者は直接輸出しないが、染色品または繊維製品として EU、周辺諸国（レバノン、サウジアラビア等）に輸出される。

多くの企業では排水処理は不十分であった。排水処理については民間企業が個別に対応できるものではなく、工業団地の様な形で政府も加わり共同で処理すべきとの声が多い。なお、Bahra は凝集沈殿方式の立派な排水処理設備を持っている。

(7) 毛布・ベルベット

Sabbagh が染色済みのアクリルステープルを輸入し近代的な工場では毛布を 1,300 枚/日生産をし 40%は輸出している。サウジアラビア、韓国、Sabbagh との合弁でアクリル毛布のサウジアラビア向け輸出の工場を建設している。

ベルベットはポリエステルと綿を原料に1,500メートル/日の生産をSabbaghが行っており40%を輸出している。

(8) 不織布

Rankoushi & Dankkakは中東最大の不織布工場で、主としてポリエステルSF不織布を2,000-3,000トン/年生産している。用途はマットレス、室内装飾品のライニングでEU、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン等に輸出される。

4.3.4 民間繊維企業の問題点

4.3.4.1 全般

民間企業全般の問題点は次の点である。

(1) 同族経営であり成長速度に限界がある。

シリアの民間企業は、不特定多数の出資者からの出資による企業ではなく、基本は同族経営である。創業者の親族・親戚で企業の主要ポストを占めている。その上に金融制度が発達していないため、自己資本の範囲で無理のない堅実な成長しか出来ない。

また同族経営に基づく、内部紛争も問題になろう。

同族経営では国際的に通用する大組織をつくることにも無理があろう。

(2) 外資の参加がないこと。

市場を持つ外資が入って来ない状態では急激な発展は難しい。アジア諸国で行われている様な、労務費の国際競争力があるところでは、地元の民間企業と外資との提携により、急激に縫製産業が成長するようなダイナミックな変化はシリアでは起こらず、成長速度に限界がある。

4.3.4.2 民間輸出縫製産業の問題点

縫製品の輸出は製品の販売タイミングの問題があり、生産（売り手）／販売（買い手）の信頼関係が極めて重要である。品質が悪く市場で売れない製品を生産する、

または納期遅れが発生すると、両者にとって極めて大きな損失になる。一般には外国企業（買い手）が海外から縫製品を調達する場合、資本参加する、または自社の技術者を生産側の会社に送り込む等の手段がとられる。しかし、シリアでは外資の資本参加がないため、生産者側が自己完結的に責任をとらなければならなくなる。このような状況下では、生産／販売間の信頼関係の構築にはかなりの時間がかかることになる。

これまでに成功してきたシリアの輸出縫製企業は、最初は国内市場で品質に関して良い評価を受け、それを買い手が認めて徐々に取引を拡大し現在の様な形態にまで発展したものが多いと思われる。外資の参入がないとシリアでの縫製産業の発展はこの様な経過を経なければならず、成長の速度は緩やかなものにならざるを得ず諸外国との競争において不利になる。

4.3.4.3 シリア綿を使用した衣料品輸出の問題点

(1) 高級綿紡績系の安定供給

綿紡績は国営企業がほぼ独占している。国営企業は紡績系を輸出する方が数量のまとまった取引が出来て外貨がすぐ入るため、国内向けの規模の小さい、資金回収に手間のかかる、国内通過商売より輸出に力を入れる。

その結果、1997年度の様民間が期待していた Lattakia のコーマ糸（高級紡績系）は全て輸出にまわされ国内企業は購入出来ない事態になっている。しかも、綿紡績系の輸入は禁止である。

このような状況では民間はシリア綿を使用した衣料品輸出事業を安心して拡大できない。また、外国の買い手も安心してシリアに注文を出せない。国が紡績を独占する以上、民間へ安定供給する義務がある。この義務が守られないようではシリア綿を使用した衣料品輸出の拡大は出来ない。

(2) 綿紡績系の品質は国営企業任せである

紡績は国営企業の実質的独占であり、紡績企業間の品質・価格競争がないため、綿衣料品輸出民間企業にとっては、最も重要な原料である綿紡績系の品質を国営企業に任せることになる。これでは、民間は思い切った事業の拡大ができない。

また、国営紡績企業の民間への紡績糸の供給が納期通り行われない、数社の紡績糸が供給され染色差が発生するなどの問題もある。

綿紡績への民間の進出は紡績～染色の一貫企業であれば許可されるが、衣料輸出企業にとっては紡績への進出は投資負担、リスクが大きすぎ不可能であろう。

(3) 綿花の国際相場が下がったときの問題

シリアの綿花の価格は国際相場とは無関係に生産コストを基礎に決められている。綿花の国際価格が上がったときはシリアの綿衣料輸出は有利になるが、国際相場が下がったときは競争力を失う。この様な状況では民間企業も積極的な投資は出来ない。外資も入らないのは当然である。

4.3.4.4 輸入材料による衣料品輸出の問題点

政府は1997年7月下旬にジーンズ用の生地を輸入を、縫製後輸出するための輸入も含め突然禁止した。この様なことが突然実施されると輸入材料による衣料品輸出を行っている企業およびその顧客にとって大きな影響がでる。この様なことのないようにする必要がある。

4.3.4.5 染色関係の問題点

排水処理に関して民間企業が個別に環境対策をするには負担が大きすぎる。政府と民間との協力により、集中処理等を行うことが必要である。

第5章 繊維産業に対するサポーターティングサービス

産業に対するサポーターティングサービスは通常標準化、検査、品質管理、生産性向上、教育訓練、技術指導、技術情報提供などを指す。制度的にはシリアには上記各サービスを提供する機関は存在している。しかしながら制度、予算、人材、機材などが不足している。团はシリア側とこの点について議論し、優先プロジェクトとして11章記載のものを選定した。

シリア産業の現状では上記に加え、制度的なインフラとして輸出免税、輸出金融、輸出保険、輸出マーケティング、品質向上による輸出競争力向上、輸出に不可欠となると予想される ISO9000 取得、などの輸出促進手段が必要である。重要なのは基本的な方向付けと、それによる政策、法律の整合性である。例えば、現在のシリアでは輸出促進と課税方針に矛盾が見られる。市場経済への移行、輸出促進、工業開発などでは省庁間の摩擦を越えて基本政策の実効性を高めるために省レベルを越えた組織が作られる例もサウジアラビア等にある。シリアでも大統領又は首相直属の実行組織を検討する価値はあろう。

工業開発でのもう1つの重要な手段は外資の導入である。シリアへの外資誘致の為の法整備と同時に保税加工区、輸出加工区を整備し、Single Window Service と称される1カ所で全ての手続きが完了するシステムを導入するのが最近各国で流行している。保税加工区、輸出加工区が低い用役費、よりよい通信施設、輸出入手続きの免除などのインセンティブを伴って開設されたならば、たとえ外資が直ちに誘致出来なくとも工業地帯としてシリアの産業の振興に役立つ。本件は繊維産業にとどまらずシリアの全産業に係わる問題であるので、本稿では詳細は省く。

第6章 需給予測

世界の繊維製品の需給の現状と予測、シリアの繊維消費の現状の分析結果、シリアの繊維需給の将来予測を行った。

世界の繊維製品の需要は今後年率2.4%で増加すると予測されている。生産はアジアを中心とした合繊の増産により、1995年には合繊と綿花の生産量がほぼ同じになり、今後合繊の生産が綿花の生産を上回ると予測される。

6.1 世界の繊維製品の需給の現状と予測

予測についてはいくつかの機関が行った予測結果を引用した。機関名は図表に記載した。

6.1.1 世界の地域別・素材別需給の現状と予測

6.1.1.1 世界の地域別繊維需要の現状と予測

世界全体の繊維需要は2000年で48.5百万トン（伸び率2.4%/年）になり、地域別（図S6.1-1）ではアジアの需要が最も多い。アジア全体（除く日本、西アジア）の需要の伸び率は4.5%/年と大きい。アジアの中では中国（含む台湾）の需要（図6.1-2）が最も多い。アジアの需要の伸びは、人口の増加と経済発展著しい東南アジアの一人当たりの繊維消費量の増加によるものである。

6.1.1.2 世界の素材別・地域別需要の現状と予測

世界の素材別の需要は、1995-1996年には合繊が綿を抜いて最も多くなると予測されている。今後もこの傾向は続き、アジアを中心とする合繊の増産により合繊需要は伸びると予測される。

6.1.1.3 一人当たりの繊維消費量

一人当たりの繊維消費量は世界平均で約7kg/人であり、最も多いのは衣料用以外の用途の多い米国の28-29kgである。シリアは世界の平均とほぼ同じである。

6.1.1.4 合繊化率

繊維消費に占める合繊の比率（合繊化率）は世界的に増加しており、1970年22%、1980年36%、1990年39%になり2000年には42%になると予測されている。合繊の需要がこの様に伸びるのは、大量生産による価格競争力とその機能が優れていることおよび衣料用以外の用途での需要が伸びていることによる。このような背景からアジアを中心に増産が行われている。

6.1.2 世界の繊維生産

世界の繊維の生産実績は合繊の伸びが安定しており、1995年には綿と合繊の生産量がほぼ同じになり、その後は合繊の生産が綿を上回ると予測されている。

6.1.3 世界の繊維製品貿易の現状と予測

6.1.3.1 世界の繊維の中間需要（Mill consumption）

繊維の加工量を示す中間需要、Mill consumption（原糸・原綿の生産量＋輸入量－輸出量；すなわちその国での原糸・原綿を原料とした紡績・織布・ニット等への投入量）はアジアが世界の半分を占め、中国は世界の約1/4を占めている。地域別に見ると米国は増加、EUは現状維持、日本は低下、旧ソ連・東欧は大幅に減少している。米国・EUは増加ないし現状維持ではあるが、今後の生産活動を示す新規の繊維加工設備の投入量は減少しており、今後中間需要は減少傾向であろう。

6.1.3.2 世界の繊維製品輸出入

世界の繊維製品の輸出入を形態別、主要輸出入国別の現状と予測（図S6.1-3）では繊維貿易に占める衣料の比率が極めて高く、布や糸になるに従って小さくなっていることがわかる。衣料はアジア諸国から米国、EU及び日本等に輸出されている。

衣料の輸出は今後年率5.5%で伸び、2005年には先進国の繊維輸入の2/3を衣料が占めると予測されている。

6.1.3.3 世界の繊維製品輸出国と輸入国

輸出・輸入量を単に絶対量で見るとはならず Net export/import (その国の繊維産業への「繊維製品の投入量」－「国内消費量」)で見ると、その国の繊維産業の状況をより鮮明に理解できる。

(1) 繊維製品輸出国

Net export の大きい国 (図 S6.1-4) は中国を筆頭に大部分がアジアの国である。アジア以外ではトルコの輸出が大きい。Net export の上位 7 ヶ国の合計は全体の 90% に達し、輸出国がこれらの国に集中していることを示している。

1980 年からの変化を見ると韓国の停滞が目立つだけで、中国、パキスタン、インド、タイ、インドネシア、トルコ等全て大幅に Net export が増加しており、これらは典型的な繊維輸出国である。

(2) 繊維製品輸入国

Net Import の大きい国 (図 S6.1-5) は EU、米国、日本、旧ソ連、メキシコ、サウジアラビア等である。サウジアラビアの Net import が多いのは繊維の生産がないことと旅行者による持ち出しによる。また、日本は 1980 年には輸出国であったが、1990 年には輸入国に転じ、その後輸入はますます拡大している。

6.1.3.4 世界の繊維産業の人件費比較

世界の紡績・織布業の時間あたりの人件費の比較 (図 S6.1-6, 7) を見ると、衣料輸出の多い中国との比率は日本 66、ドイツ 57、米国 32、台湾 16、トルコ 12 倍となっている。衣料のように原価に占める労務費の比率が高くなると当然人件費の安い国に衣料産業が集中し、衣料がこれらの国から世界に輸出されることになる。

(衣料製造原価に占める人件費の比率は 35-50% と推定されている。一方布では 15-20% と推定されている。)

6.1.3.5 WTO 問題

繊維の貿易は 1974 年以來、MFA (MULTI FIBRE ARRANGEMENT) の下に運営されてきたが、輸入の急増に対処するため二国間協定を締結し輸入枠 QUOTA を設け輸入を管理する様になった。

1986年9月に幕をあげたウルガイ・ラウンド交渉は1993年12月に終了し、1995年に新たにWTO（世界貿易機関）が発足した。同時に繊維の分野ではMFAに代わりWTO繊維協定（AGREEMENT ON TEXTILES AND CLOTHING）が発効した。

この新たな繊維協定は、繊維の分野がガットに統合され自由化されるまでの10年間（2005年1月まで）の国際ルールで、3ステップ（各1995年1月、1998年1月、2002年1月に開始）に分けて残存MFA規制の下にガットへの統合率等を定めている。

なお、EUはシリアには“Europe-1”というライセンスを与えており、輸入制限枠なし（QUOTAなし）で無税での輸入の権利を与え、シリアからの輸出を奨励している。

6.1.3.6 主要国の繊維貿易の現状と将来

上記のような繊維貿易の現状において、その将来を推測するための参考として繊維製品貿易の主要国の現状と将来に対する見方をまとめた。

(1) 米国（6.3.4(4)参照）

繊維は川下の衣料に向かうほど、原価に占める原料代の比率が下がり、労務費の比率が高くなる。また、物流費用も川下に行くほど原価に占める比率が高くなる。そのため、労務費の高い先進国は衣料の生産には基本的に不利である。

米国は綿花の世界第一の生産国であるが、綿製品（紡績糸、布、衣料）を輸入し、一方で綿花を輸出している。

労務費の高い米国が、コスト競争だけを行ったのでは国際的に勝てないとの認識の下、国内産業の強みを発揮できるQR（Quick Response）により

- a) 顧客情報を正確かつ迅速に把握し
- b) 顧客の要求に対応した製品を短期間に供給することを目的にして、QRへの投資を積極的に行っている。

(2) EU

- a) 近隣諸国（トルコ、東欧諸国、南地中海諸国）からの素材の調達
- b) 拡大欧州貿易地域（Wider European Trading Area）の形成による OPT（Outward Processing Trade、委託加工貿易）による中国等との競争力強化
- c) QR やジャストインタイム出荷システムの構築（EU 地域内の顧客に対して地の利を活かした QR の構築）

EU は拡大を進めており、まずトルコが 1996 年 1 月に EU の関税同盟（Customs union）に加盟し、EU との相互繊維貿易を拡大させている。今後、EU は近隣諸国との貿易自由化を進めようとしている。

EU の拡大により、新規加盟国からの繊維製品の輸入は増加するが同時にこれら諸国への他の製品の輸出が増大し、相互に貿易が拡大する事を期待している。これらの新規加盟諸国は、欧州という大市場に近い点でアジア諸国に対し有利であり、アジア諸国の低コストという競争力に対して、立地上の優位を活かした OPT の基地として今後発展するであろう。

(3) 日本

日本は 1986 年からの円高により衣料の輸入が急増し、1987 年以降繊維製品の貿易収支は赤字になり 1996 年には 183 億ドルという巨額の赤字になっている。

国内繊維産業と海外での生産拠点の二つに分けて対応を行っている。

今後は定番品については、日本国内で培ってきた生産管理・品質管理のノウハウをアジアを中心とした海外の生産拠点に供給して発展させる方向である。一方、QR や小ロット生産等が要求される差別化・個性化商品の生産を促進すべく生産・流通・デザインを取り込んだネットワーク型組織の構築が進められている。同時に QR 体制の強化、流通の合理化が行われている。

(4) 中国

綿花の世界二位の生産国であるが、旺盛は国内・輸出需要のため原糸・原綿は綿花・合繊ともに不足しており、これらを多量に輸入しており、この状態は当分続くと予想される。輸入された原糸・原綿は布や衣料に加工され輸出される。布

の輸出は伸びているが、衣料は輸出先での QUOTA 規制により伸び悩んでいる。しかし、繊維製品生産・輸出の大国としての地位は続くであろう。

(5) 台湾・韓国

台湾・韓国は繊維製品の輸出国として積極的に輸出を拡大してきたが、経済の発展とともに人件費の上昇により競争力が低下し、繊維産業の構造が変化している。

台湾では、合繊およびその布の生産・輸出は順調であるが、綿製品の輸出は減少している。衣料生産は人件費の上昇、染色等による環境問題への対応、土地取得の難しさ等の理由で輸出競争力がなくなり大幅に減少し、生産拠点の中国・マレーシア、フィリピン、ベトナムへの移転が積極的に行われている。

韓国では、合繊の原糸・原綿の輸出は大幅に伸びて世界第 4 位の生産国になった。しかし、綿紡績・織物は競争力をなくし、中国・ベトナム・インド等への生産設備の移転が行われている。布の輸出も QUOTA のある国への輸出は伸び悩み、QUOTA のない中国への輸出を伸ばしている。また、衣料製造も海外移転を積極的に進めている。同時に、衣料の輸入が急増している。生産設備の海外移転とともに繊維関係の雇用人員は 1990 年の 56.1 万人から 42.4 万人に減少したと言われる。

(6) ASEAN

ASEAN 諸国の中では、タイの繊維製品輸出は好調であるが、衣料生産はより人件費の安いバングラデシュ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、ベトナムへの移転が進められている。インドネシアでは、これまで輸出は極めて好調であったが、最低賃金の大幅上昇（1994 年 46%、1995 年 21%）により、競争力が低下し、輸出も伸び悩んでいる。政府は、外資の導入や輸出のための原料の輸入税の低減等の対策を打ち出している。

(7) パキスタン

綿花の世界第 5 位の生産国であり、綿紡績糸・布の輸出を急速に伸ばしてきたが、川下部門である染色仕上げ等への投資や品質改善を怠り安値での輸出を続けてきた。その結果輸出が伸び悩んでいる。

繊維産業の輸出振興のため、政府は、繊維機械の輸入自由化、綿紡績糸・綿花の輸出入に関わる税を 3 年間無税にする等の措置をとった。

今後パキスタンはより川下部門を強化し、付加価値の高い製品への輸出に転換する事を迫られている。

(8) ベトナム・バングラデシュ

ベトナム・バングラデシュともに布等の衣料縫製材料を全て輸入して縫製のみを行う衣料産業が急成長し、衣料の輸出が急増している。1995 年の衣料輸出額はベトナムが 8 億ドル、バングラデシュは 20 億ドルに達した。

このように成長した理由は人件費の安さとともに、周辺諸国の QUOTA 枠が無くなったために QUOTA 枠をもとめて、周辺諸国が進出してきたことによる。

(9) トルコ

トルコは衣料の EU 輸出で 1995 年に金額では中国を抜いて 1 位になった。量では中国に次いで 2 位であった。すなわち、トルコは中国より単価の高い製品を輸出していることになる。トルコは 1996 年に EU 関税同盟に加盟したため、EU はトルコからの繊維製品の輸入に対する QUOTA を全て撤廃した。

(10) 旧東欧

ルーマニア、ポーランドはアジア諸国やモロッコ、チュニジア等に代わって EU の OPT 基地として輸出を急激に伸ばしている。EU の輸入品の中で、東欧からの輸入品の平均単価は他の国より高い水準にある。今後東欧は地理的に EU に近いという有利さ、親近感、政治的安定性等の要素から繊維製品の輸出をさらに伸ばすであろう。

(11) チュニジア、モロッコ

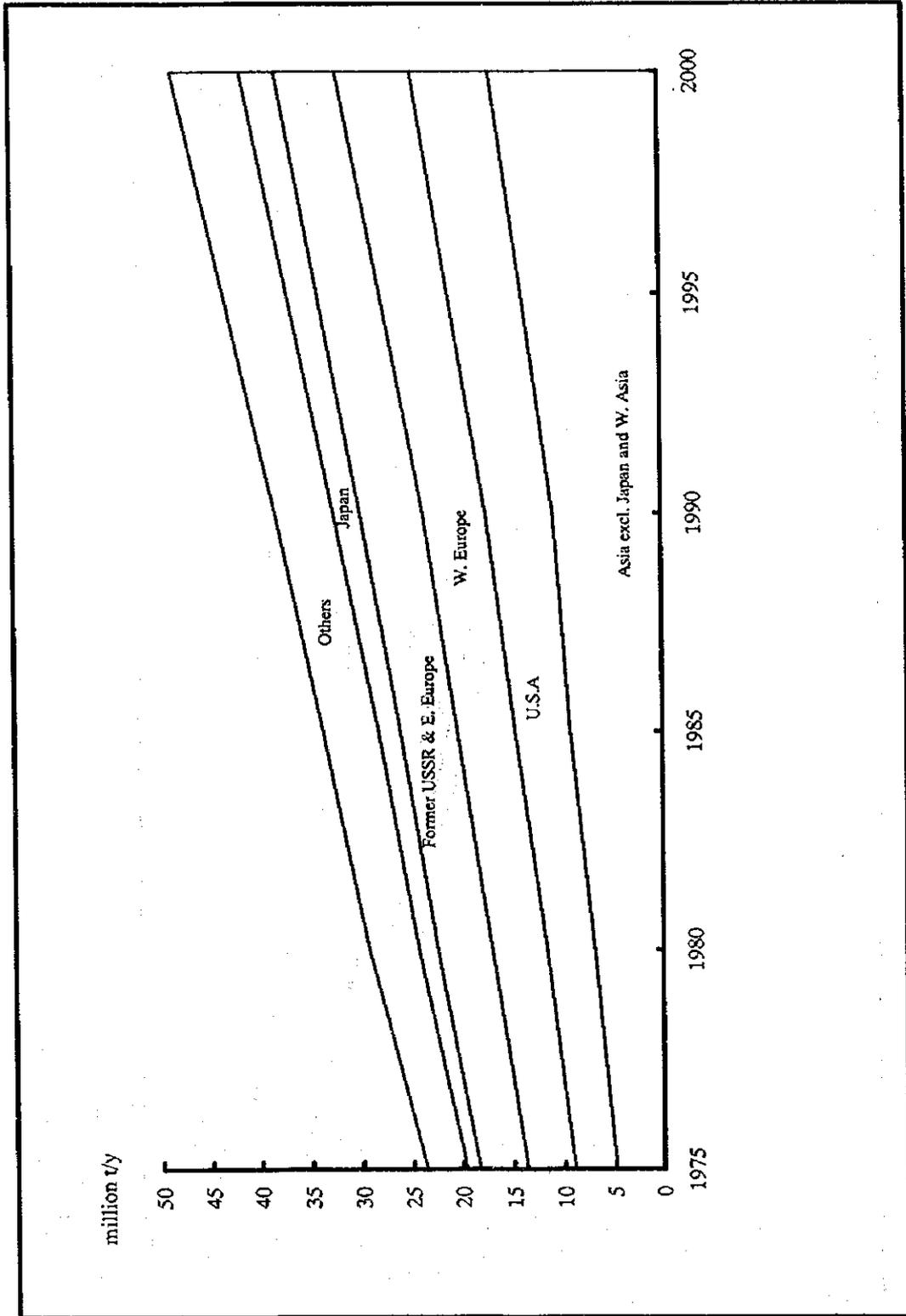
この両国は EU への衣料品輸出を多量に行っている。最近 Textile Intelligence 誌は、EU の OPT 輸入に占めるこの両国の合計は約 45%になると推定している。これは OPT 基地として成長が著しい東欧と同等の量である。この両国の EU への衣料輸出の推移を見ると過去着実に増加しているものの、最近は東欧の伸びの方が大きくなっている。

チュニジアの繊維産業の生産高の中で衣料品は 1996 年 182 百万着/年と極めて大きく、ここ 10 年間で 2.7 倍に伸びている。それに対し、紡績、織布、ニットの生産規模と伸びは衣料より少なく、衣料輸出を集中的に伸ばしていることが分かる。

(12) アラブ首長国連邦 (UAE)

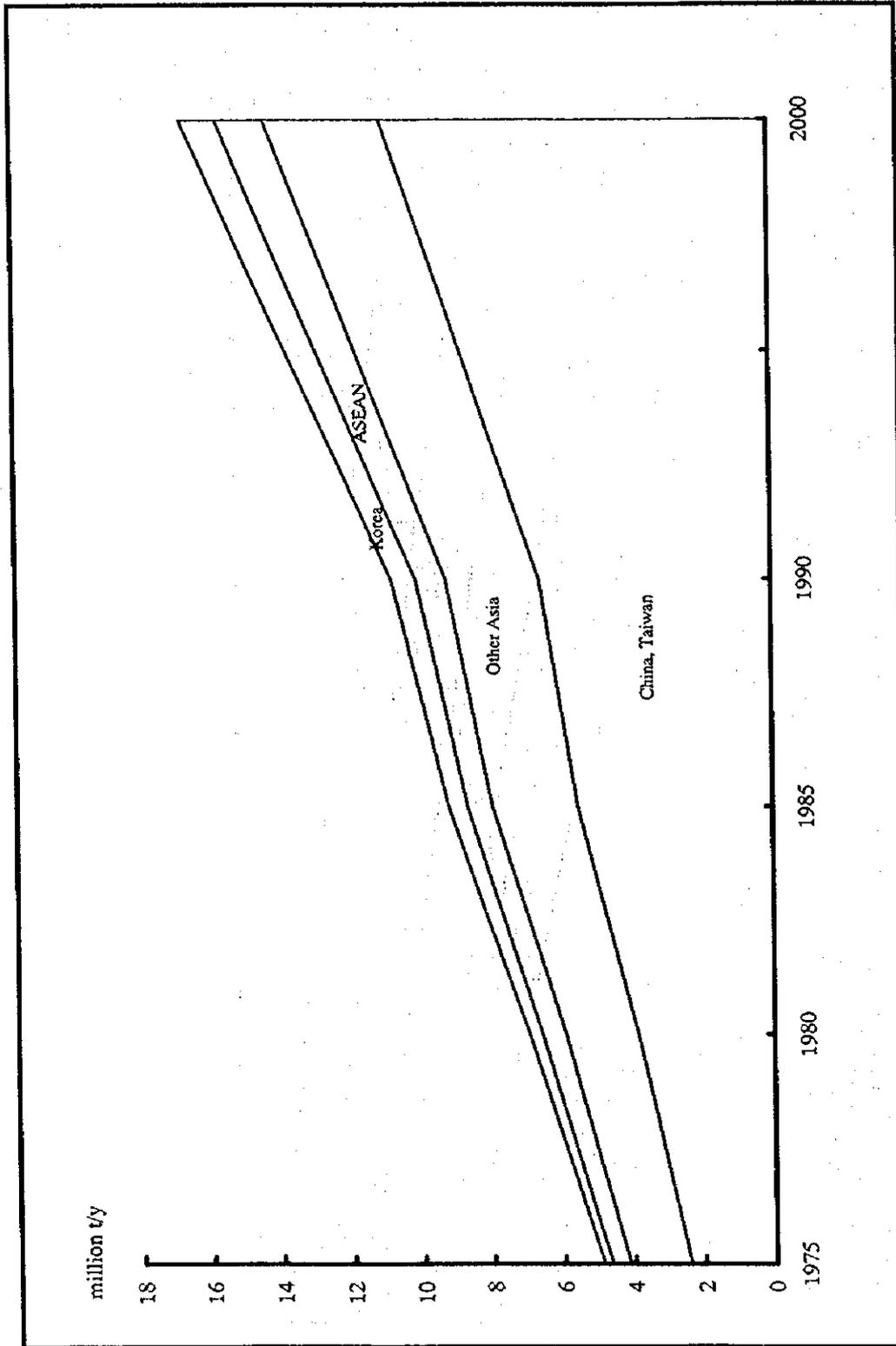
UAE のドバイには Free Trade Zone があり衣料の縫製品輸出が大規模に行われている。輸出量は 1992 年で 23,000 トン/年、2 億ドル/年である。この様に発展した理由はストライキがない、人件費が安い、衣料生産企業を設立する際多くの利点がある、近代的なインフラストラクチャーが整備されている等である。

FIG. 6.1-1 TOTAL FIBER DEMAND IN THE WORLD BY REGION (1980-2000)



Source: Japan Chemical Fibers Association

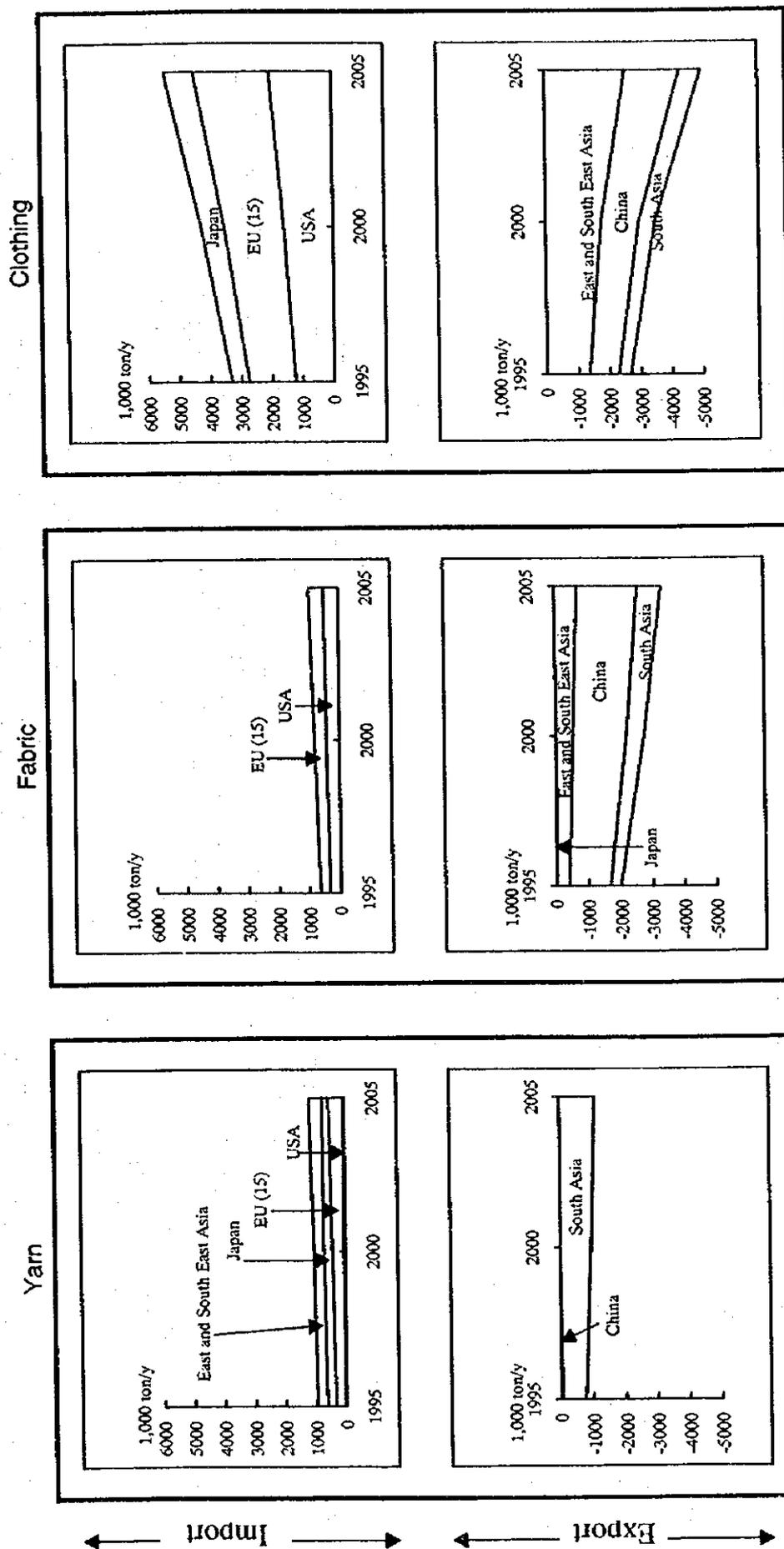
FIG S6.1-2 TOTAL FIBER DEMAND IN ASIA (Excl. Japan and W. Asia)



Source: Japan Chemical Fibers Association

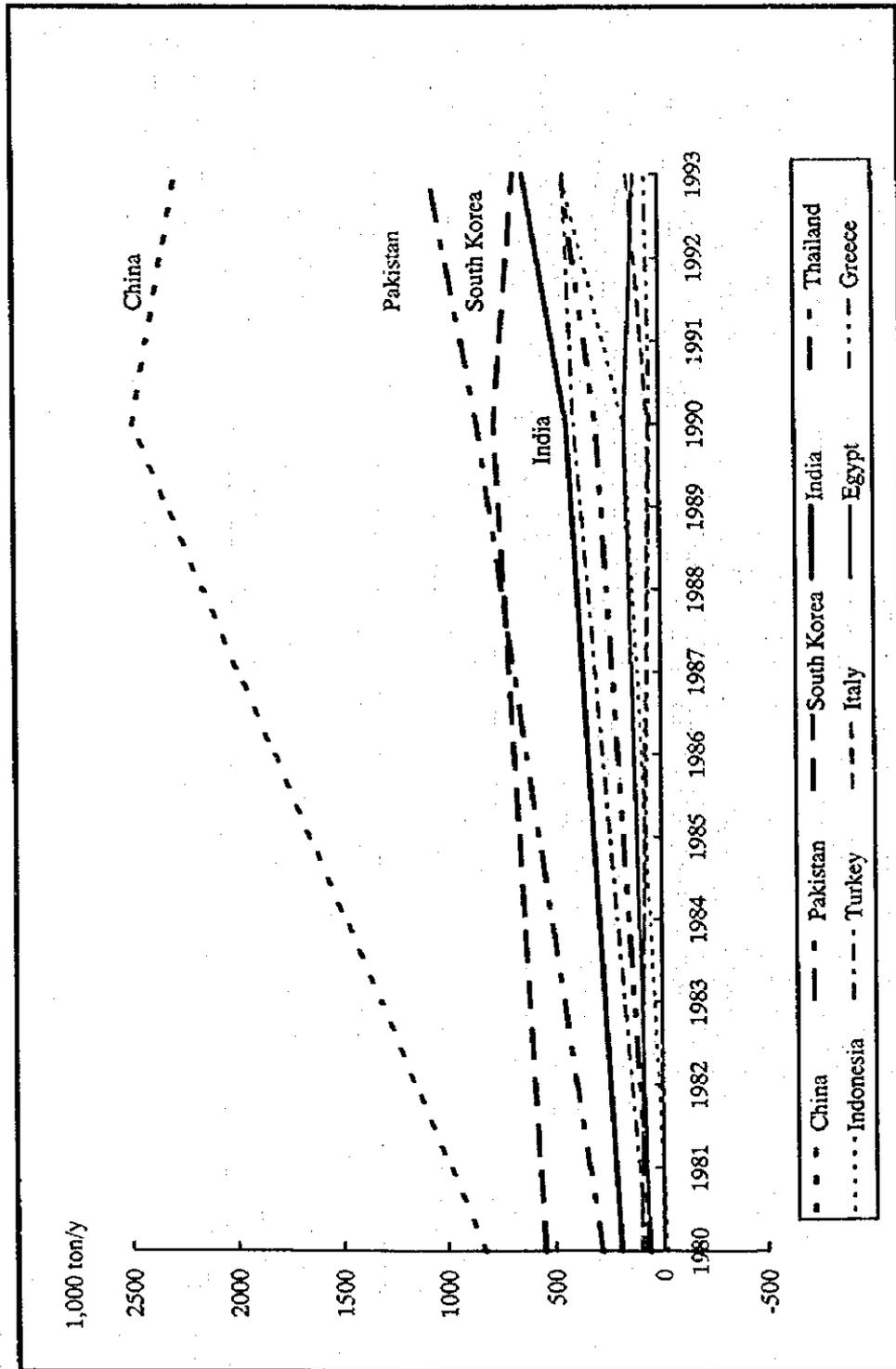
* Other Asia = India, Pakistan, Viet Nam, Cambodia, Laos, etc.

FIG.6.1-3 IMPORTS AND EXPORTS OF YARN, FABRIC AND CLOTHING FOR MAIN TRADING COUNTRIES AND REGIONS (1995-2005)



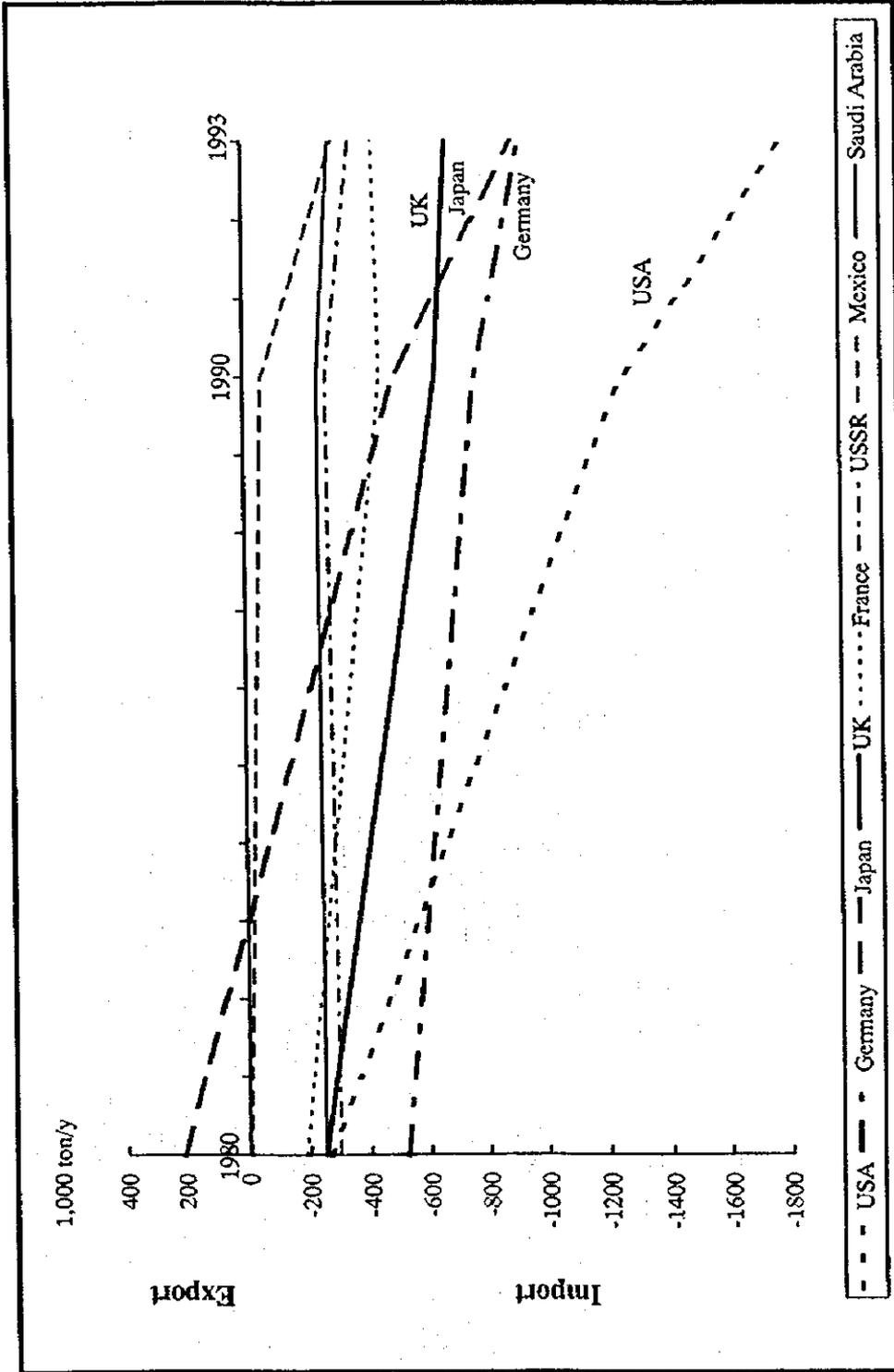
Source : Textile Outlook International, March 1997

FIGURE 6.1-4 NET EXPORTS OF MAIN EXPORTING COUNTRIES OF TEXTILES AND CLOTHING



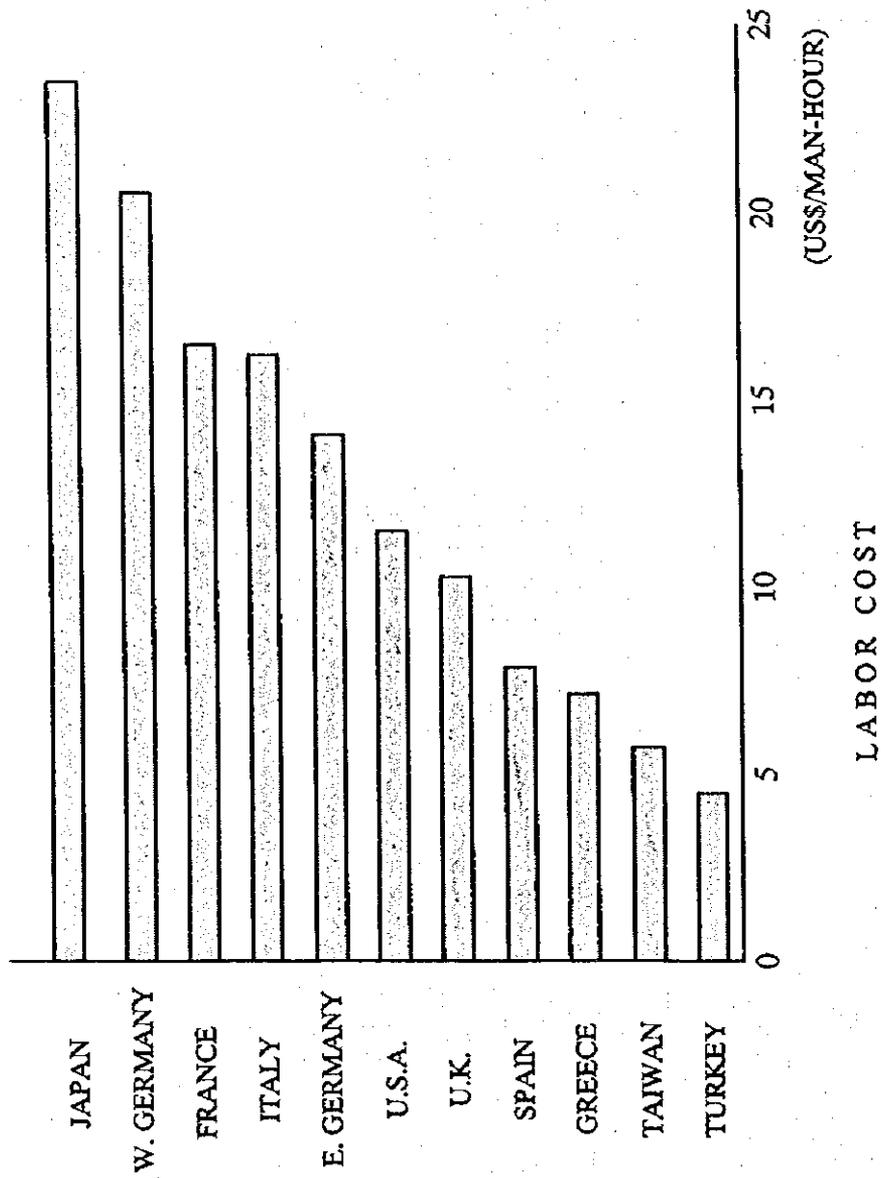
Source : Textile Outlook International March 1997.

FIG. 6.1-5 NET IMPORTS OF MAIN IMPORTING COUNTRIES OF TEXTILES AND CLOTHING



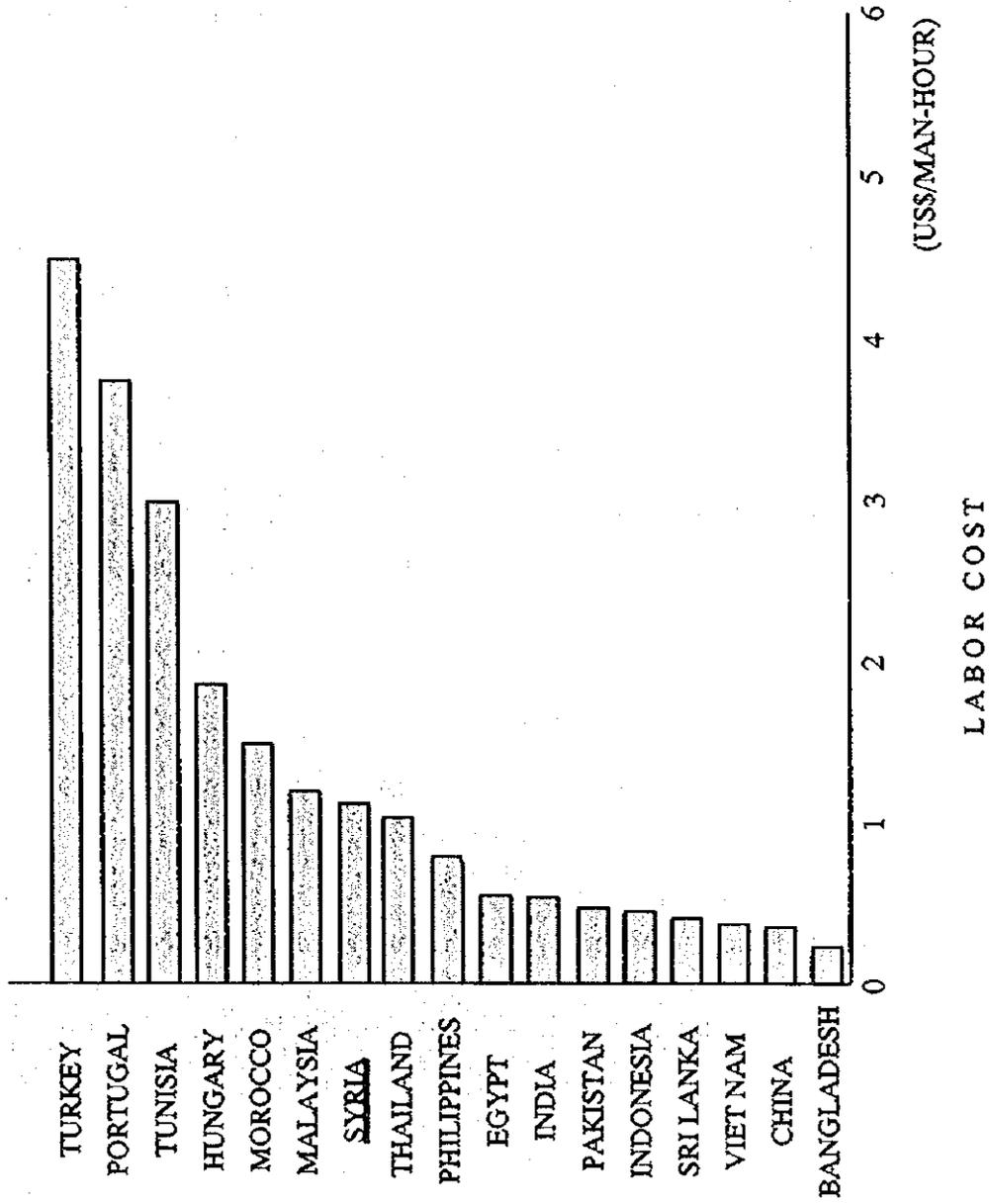
Source : Textile Outlook International March 1997

FIGURE 6.1-6 LABOR COST PER MAN-HOUR IN SPINNING AND WEAVING IN THE WORLD -1- (1993)



Source: Werner International

FIG. 6.1-7 LABOR COST PER MAN-HOUR IN SPINNING AND WEAVING IN THE WORLD -2- (1993)



Source: Werner International

6.2 シリアの繊維消費の現状分析

6.2.1 シリアの統計

(1) 生産統計

シリアの国全体の繊維生産統計と国営企業と民間企業に分類した生産統計は発表されている。

(2) 輸入統計

シリアの輸入統計によると、約10万トンの繊維および製品の輸入がある。素材・形態別にわかるものだけで判断して、化合繊のフィラメント糸が約8万トンある。

(3) 輸出統計

シリアの輸出統計によると、1993-95の輸出量は綿花・羊毛等の繊維原料は14-18万トン、繊維製品は3.2-5.6万トンである。そこで、輸出製品の形態から判断し輸出量を綿紡績糸2,000トン、綿製品17,000トン、合繊製品18,000トン、カーペット関係1,000トン合計38,000トン/年と推定した。

(4) シリアの統計に基づく国内繊維消費量

国内繊維消費量を、「国内への投入」+「輸入」-「輸出」として、1993-95の平均を計算すると、97,000トン(=37,000+102,000-42,000)になる。

6.2.2 FAOの統計 (Food and Agriculture Organization of the United Nations)

1990-92年の平均で、国産綿花・羊毛の投入が69.8千トン、化合繊の輸入43千トン、輸出22千トンで、国内繊維消費量は91.2千トン、一人当たり繊維消費量は約7kgとしている。

6.2.3 諸外国からシリアへの輸出統計

以上のような状況から、シリアへの輸入量については主要輸出国からのシリアへの輸出統計を集計することにした。

(1) 各国の輸出統計の集計方法

集計方法は次のとおりである。

- a) 主要輸出国として工業国 23 ヶ国とシリアが生産していない合成繊維の輸出国である、トルコ、台湾、韓国、香港、シンガポールを選んだ。
- b) 工業国 23 ヶ国からの輸出は国連の資料を、その他の国からの輸出は各国の輸出統計を集計した。

(2) 各国からの輸出統計の集計結果

集計結果を ANNEX-3 に添付した。なお、集計の対象とした国以外からの輸入はあるであろうが、その量は多くないと予想している。

この統計によって、シリアへの繊維輸入量がかんがりの精度で、素材別・形態別に詳細に把握することができたといえよう。概要は次のとおり。

- a) 輸入量は（表 S6.2-1）に示すように 8 万トン程度であり素材は合繊が主体である。
- b) 量的に多いのは、合繊のフィラメント系と紡績系で、輸入の約 80%を占めている。
- c) 布の輸入は約 1 万トンでその 90%は合繊の織布である。残りの 10%は合繊のニットである。
- d) 衣料の輸入は 100 トン程度と少なく、その他にタイヤコードその他で 1,000 トン強の輸入がある。
- e) シリアへの輸出国別では、トルコ、台湾、工業国 23 ヶ国が多く各 2 万トン強、韓国が 1 万トン弱、香港とシンガポールは合計でも 1-2 千トンと少ない。

6.2.4 シリアの繊維消費量のまとめ

各種の統計を比較し繊維消費量を次のように推定する。（1996 年時点として）

(1) 国産原料の繊維産業（紡績）への投入量（シリア生産統計）

ラタキアの新紡績工場が稼働したなどの第 1 次現地調査で得た各種の情報から判断し投入量を羊毛を含め 64,000 トン（紡績系換算）と推定する。

(2) 輸入量 (28ヶ国輸出統計)

諸外国からの1992-94年の輸入量から年間変動を考慮して素材・形態別に概略値を計算し約86,500トンと推定した。

(3) 輸出量 (シリア輸出統計)

輸出量を38,000トンと推定した。

(4) シリアの繊維消費量

「投入」+「輸入」-「輸出」として計算すると約112,500トン(=64,000+86,500-38,000)になる。

人口を15百万人とすると一人当たり繊維消費量は7.6kgになる。

6.2.5 シリアの繊維消費の素材・形態別分類

上記のデータを素材・形態別に分類(表S6.2-2、表S6.2-3)すると合繊のフィラメント系(FY)が需要の約半分を占め、合繊のステープル(SF)を含めて、合繊の消費比率は全体の54.1%(合繊52.1とOther 2.0の合計)になる。素材別の詳細を推定すると、合繊の中ではポリエステルが22%、ナイロン13%、アクリル11%になる。

表 S6.2-1 IMPORT OF TEXTILES TO SYRIA BASED ON EXPORTING COUNTRIES STATISTICS

(1)

		'92	'93	'94
Cotton, Wool, Silk, Man-Made		2,509.8	3,284.2	4,075.3
FY, Textured-FY, Spun-Yarn		45,647.9	71,573.6	65,507.4
Woven Fabric		4,679.1	8,348.2	9,626.6
Knitted Fabric		803.5	1,086.1	1,086.1
Clothing	Woven	25.6	11.1	11.2
	Knitted	15.2	5.6	15.7
	Unknown	12.6	14.3	127.8
	Sub-Total	(53.4)	(30.9)	(154.7)
Others		1,431.8	1,867.5	1,301.1
Total		55,125.5	86,190.5	81,751.2

Source : UN Trade of the Industrialized Nations with Eastern Europe, the former USSR and the Developing Nations, Supplement to the World Trade Annual Exports from Australia, Austria, Belgium-Luxembourg, Canada, Denmark, Finland, France, Germany, Greece, Iceland, Ireland, Israel, Italy, Japan, Netherlands, New Zealand, Norway, Portugal, Spain, Sweden, Switzerland, the United Kingdom and the United States of America.

表 S6.2-2 DOMESTIC CONSUMPTION OF TEXTILES BY FIBER

(1,000 ton/y)

	Cotton	Wool	Synthetic FY	Synthetic SF	Total
Domestic Production	63.0 *	1.0	-	-	64.0
Import	2.0	2.0	55.4	27.1	86.5
Export	19.0	1.0	14.0	4.0	38.0
Domestic Consumption	40.0	2.0	41.4	23.1	112.5

Source : UN Trade of the Industrialized Nations with Eastern Europe, the former USSR and the Developing Nations, Supplement to the World Trade Annual Exports from Australia, Austria, Belgium-Luxembourg, Canada, Denmark, Finland, France, Germany, Greece, Iceland, Ireland, Israel, Italy, Japan, Netherlands, New Zealand, Norway, Portugal, Spain, Sweden, Switzerland, the United Kingdom and the United States of America.

Trade Statistics of Taiwan, Korea, Hong Kong, Singapore and Turkey.

Note : Synthetic includes man-made fibers

* : As spun yarn

表 S6.2-3 DOMESTIC CONSUMPTION OF TEXTILES BY FIBER MATERIAL

(1,000 tons/y)

	Domestic	Import	Export	Domestic Consumption	
Cotton	63.0	1.7	19.0	45.7	40.6%
Wool	1.0	2.2	1.0	2.2	2.0
Polyester	-	32.1	0.9	31.2	27.7
Nylon	-	18.4	7.0	11.4	10.1
Acrylic	-	15.1	4.0	11.1	9.9
Synthetic	-	9.3	3.3	6.0	5.3
(Synthetic)	-	(74.9)	(15.2)	(59.7)	(53.0)
Rayon	-	4.2	2.0	2.2	2.0
Man-Made	-	0.5	0.1	0.4	0.4
(Synthetic, Rayon and Man-Made)	-	(79.6)	(17.3)	(62.3)	(55.4)
Other, Unknown	-	3.0	0.7	2.3	2.0
(Synthetic, Rayon, Man-Made and Other)	-	(82.6)	(18.0)	(64.6)	(57.4)
Total	64.0	86.5	38.0	112.5	100.0

Source : UN Trade of the Industrialized Nations with Eastern Europe, the former USSR and the Developing Nations, Supplement to the World Trade Annual Exports from Australia, Austria, Belgium-Luxembourg, Canada, Denmark, Finland, France, Germany, Greece, Iceland, Ireland, Israel, Italy, Japan, Netherlands, New Zealand, Norway, Portugal, Spain, Sweden, Switzerland, the United Kingdom and the United States of America.
Trade Statistics of Taiwan, Korea, Hong Kong, Singapore and Turkey.

Note : Figures with * are estimated figures proportional to import

6.3 シリアの繊維需要予測

6.3.1 国内・輸出需要に関する共通要因（前提条件）

(1) 長繊維綿花の生産はできない。

シリアの気象的条件からエジプト等で生産している、ELS と呼ばれる長繊維綿花の生産はできない。本件についてはプログレスレポートIでシリア側に確認済みである。

(2) 化合繊の生産は当面行われぬ。

(3) 品質向上が行われる。

6.3.2 国内需要に影響する要因

(1) 人口増加の予測

繊維の需要予測において2010年の人口予測の中心値を2,200万人(2000年1,630万人、2005年1,900万人)とする。これは2010年までの年平均増加率3.0%に相当する。

(2) GDP per capita の伸び率予測

今後のGDPの伸びを現状と同じ7%から低めの3%とその中間の5%とし、人口の増加率平均3.0%として計算する。

6.3.3 輸出に影響する要因

6.3.3.1 シリアからの輸出の比較優位

a) 綿花の生産国である

シリアは約25万トンの綿花生産国で国内消費を6.3万トン（紡績糸換算）とすると残りの輸出余力（生産－国内消費）の大部分を綿花そのもので輸出している。世界の主要綿花生産国の多くは綿花・綿製品の輸出入を並行して行っている。そ

これらの国の生産・輸出および人件費をまとめたのが図 S6.3-1 である。綿花の輸出国を分類すると次のようになる。

- A. 人件費が高く綿花そのものでの輸出比率が多い国（綿製品にまで加工しても輸出競争力の無い国）
米国、オーストラリア、（旧ソ連）
- B. 人件費が安く綿花そのものでの輸出を少なくして、綿加工品（紡績糸、布、衣料）で輸出している国（綿に付加価値をつけて輸出している国）
中国、パキスタン、インド、エジプト、ブラジル、トルコ
- C. 上記の中間の国
ギリシャ

上記の例外がシリアとアルゼンチンである。すなわち、人件費が安いにも拘わらず綿花を加工して綿製品にせず綿花そのもので輸出している国である。

このことは、シリアが綿製品輸出のための繊維産業の基盤を整備し、十分に検討された開発計画の下に着実に課題を解決すれば、綿製品の輸出を拡大できる可能性が極めて大きいことを示している。

b) 立地

シリアは世界的な市場である EU に近いという立地的な優位性がある。近いということは衣料輸出において最も重要な QR（Quick Response）に対応するための条件として極めて重要なことである。また、欧州に陸送（トラック輸送）できることも立地上の極めて大きな優位点である。これらの点は今後シリアが繊維製品の輸出を行う際に競合国であるアジア諸国に対して極めて優位な点である。

c) EU、米国への繊維輸出の QUOTA が無いこと。

世界の繊維貿易では残存 MFA 規制に基づき 2005 年までの輸出に関し規制が設けられており、輸出国は輸入国の QUOTA の範囲内で輸出するよう規制されている。なお、WTO に加盟していない中国などは、このまま推移すれば 2005 年以降も輸入国との 2 国間取り決めにより輸出量が規制されることになる。

シリアは EU、米国との間に QUOTA がなく自由に輸出できる立場にある。EU はシリアに対し“Europe 1”というライセンスを与え、輸入税なし数量制限なしに輸出できるという権利を与え、シリアの輸出を奨励している。

米国もシリア繊維製品の輸入に対し制限は設けていない。

シリアの現在の輸出が少ないとはいえ、QUOTAが無いということはアジア諸国などに対し極めて有利な立場にあるといえる。

d) 人件費 (図 S6.1-6, 7)

シリアの繊維産業の人件費を競合他国と比較するとトルコ、チュニジアより安く、マレーシア、タイと同レベル、エジプト、インド、パキスタン、インドネシア、ベトナム、中国、バングラデシュより高いというレベルであり、衣料輸出国として決して安いレベルではない。しかし、衣料輸出国として成功しているモロッコ、チュニジアの人件費はシリアより高いのでシリアでは十分成り立つレベルである。生産性向上等の努力により他国と十分競合できるレベルにある。

なお、この統計では為替レートを SP21.49/US\$ (1993年6月14日) を使用しており、現在の SP45/US\$ を使用すれば人件費はより安くなり、シリアの競争力が高まる。

e) 民間の大手企業は輸出実績がある

国営企業からの輸出は極めて限られているが、シリア綿を使ったニット製品を欧州の大手企業に輸出して成長している民間企業もある。また、衣料原料をほとんど輸入して、縫製のみを行い、欧州の一流企業である "adidas" 等へ輸出している民間大手企業もある。このように民間企業の一部は繊維輸出において見事に成功し成長している。

この様な実例からみてもシリアの繊維産業を輸出産業として育成するための条件は整っていると判断される。

f) EU への加盟

シリアは 2010 年までに EU に加盟する事を検討している。EU は繊維製品の大きな市場であり、シリアの輸出機会は拡大する事は間違いない。

g) シリアの繊維産業は伝統ある産業である

6.3.3.2 シリアからの輸出で問題となる要因

a) 輸出の基礎条件が未整備である

一部の民間企業を除き繊維産業全体を見ると、品質、品質保証、納期、流通、梱包、輸出手続き等いづれも不十分なし未整備である。上記のように民間で成功している企業は独自に努力し自己完結的にこれらの問題を解決している。

b) 輸出可能な製品を製造する繊維加工設備が不足していること

繊維製品の輸出特に衣料輸出を行うためには、高品質の製品を生産できる紡績・織布・ニット・染色仕上げ・縫製という長い繊維加工工程の設備・技術が必要になる。現在のシリアにはこのような設備・技術が明らかに不足している。今後計画的に整備する必要がある。

6.3.4 輸出市場

輸出市場として次の地域・国がある。各々についての見解をまとめる。

(1) EU (6.1.3.6(2)参照)

EU は世界の衣料輸入の最大の市場である。そして、前述のとおり、EU はシリアに“Europe 1”というライセンスを与え、輸入税・量的制限なしに輸出できるという権利を与え、シリアの輸出を奨励している。

EU への繊維製品の 10 大輸出国を表 S6.3-1 に示す。特に衣料については中国、インド、トルコ、東欧諸国、モロッコ、チュニジア等が主な輸出国であり、シリアの競合国になる。

(2) 中東諸国 (6.1.3.6(12)参照)

大きく分けて、GCC 諸国 (Gulf Cooperation Council、バーレーン、クウェート、オマーン、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦) とイラン、イラクが大きな市場の候補になる。

GCC 諸国では繊維の生産はほとんど行われていない（合繊の生産設備がサウジアラビアにはあるが生産実績は報告されていない）。人口はこの地域で 16.9 百万人、繊維製品の市場規模は 60 億ドル（1991-92 年、Textile Outlook International, March 1994）と言われる。この地域の繊維消費は地域そのものの需要の他に、国外からの居住者の消費および持ち帰り需要が多いのが特徴である。そして、UAE のドバイは繊維の輸入基地、衣料の加工輸出基地として発展している。ドバイは輸出入の基盤が極めて整備されている。

この地域の輸入は衣料への加工用の布であり、輸入量は年間 20 億ドルである。その内容は大部分が化合繊（UN Trade Statistics）である。輸出国は、韓国、中国、タイである。かつては日本の化合繊の大きな市場であったが現在はこれら諸国に代わっている。隣国の綿輸出国であるパキスタンからの輸出が少ない綿のは輸入が少ないことを表している。

国内需要規模は、主要市場のサウジアラビアにおいて衣料用の綿の消費量が 2 万トン/年弱であり小さい。

GCC 諸国へのシリアからの綿製品の輸出の可能性は少ない。

(3) 米国 (6.1.3.6(1)参照)

米国は世界第一の綿花生産国であるが、人件費が高く、繊維製品の価格競争力は劣るため生産された綿花の約 40%を輸出し、輸出量にほぼ匹敵する量の綿製品を輸入している。輸入綿製品では衣料が重量で約 60%以上を占め、その他の大部分は布である。米国への輸出国はこれまで中国、香港、韓国、台湾であったが、最近は伸び悩み、NAFTA（North Atlantic Free Trade Area、北大西洋自由貿易地域）、CBI（Caribbean Basin Initiative）諸国からの輸入が急増している。

現在、シリアから米国への繊維品の輸出実績は、西欧と比較しては少ないが、民間企業では米国のみ輸出している会社もある。米国市場は EU の市場と明らかに性格が異なるので（例えば米国はロットが大きい）、シリア企業にとって適当な分野を狙うと十分輸出拡大の可能性はある。

なお、米国への繊維製品の10大輸出国(表 S6.3-2)の中で注目すべき変化(1995年と94年の対比)は中国・韓国・台湾の減少傾向と、特にメキシコの急激な増加である。

6.3.5 国内原糸・原綿の生産予測

(1) 綿花の今後の生産量予測

現在の生産量を250千トン(1996/97の生産予測)として、2010年での生産量は10%増の275千トンが限度であろうとシリアの綿花専門家は予測している。

(2) 羊毛の生産実績と今後の生産量予測

Greasy wool の生産量は約5,000トン/年(washed 換算で2,750トン)であるが、国内に投入される量は約1,000トン弱(washed 換算)である。シリア産羊毛は輸入羊毛に混ぜてカーペット等として使用されている。生産量も少なく、需要全体への影響も少ないので当面現状維持の生産量として需要予測を行う。

(3) 絹の生産実績と今後の生産量予測

絹糸の生産量は年間約3トンである。羊毛と同様生産量も少なく需要全体への影響も少ないので当面現状維持の生産量として需要予測を行う。

(4) 合繊の国内生産

合繊の生産は現在も行われておらず、2010年までも行われないと予測する。

(5) 今後のシリアの原糸・原綿の生産量予測(まとめ)

以上の結果をまとめるとシリアの原糸・原綿の生産量は次のとおりである。

	綿花	羊毛	絹	合計
1995年	221	3	0.003	224千トン
2000年	239	3	0.003	242千トン
2005年	257	3	0.003	260千トン
2010年	275	3	0.003	278千トン

6.3.6 国内繊維需要予測

(1) 繊維消費量の推移

シリアの年間一人当たりの繊維消費量はFAO（Food and Agriculture Organization of the United Nations）の統計によれば過去10年間7.8kgで推移している。

(2) 繊維消費量の近隣諸国等との比較

シリアの近隣諸国のGDP per capitaと一人当たり繊維消費量、およびGDP per capitaがシリアと同程度の国の繊維消費量を表S6.3-3 図S6.3-2に示す。いずれから判断してもシリアの繊維消費量は妥当であると判断される。

(3) シリアの一人あたり繊維消費量と国全体の繊維消費量の予測

発展途上国65か国のGDP per capitaと一人当たり繊維消費量の関係は図S6.3-2に示すように良い相関関係が認められる。この回帰式を用いてシリアの今後の1人あたり繊維消費量と国全体の繊維消費量を予測し（表S6.3-4）に示す。

すなわち、GDPの伸びが年3%の場合、1人当たりの繊維消費量は2010年まで7.6kgで現在と変わらないが、国全体の繊維消費量は人口の増加につれて増加し、2010年には167千トンになる。GDPの伸びが年5%の場合、2010年には1人あたり消費量は現状の7.6kgから9.0kgに、国全体の消費量は現在の113千トンから198千トンに増加すると予測される。なお、GDPの伸びが年7%の場合、2010年にはそれぞれ10.7kg、235千トンになると予測される。（表S6.3-4）

(4) 国内需要の素材・形態別分類

1) 合繊化率

調査団が行ったシリアへの輸出国の統計を集計した結果は52-54%（表S6.2-3参照）で繊維消費に占める合繊の比率（合繊化率）は世界的に増加しており、現在は約40%である。今後も増加するものと予測されている。

周辺諸国の合繊化率（表 S6.3-5）は 30-40%である。サウジアラビア、オマーン、クウェートの合繊化率が高いのは純粹の国内需要の他に外国人居住者等の持ち帰り需要があるからである。

輸出国の統計から判断すればシリアの合繊化率は 52-54%になり極めて高く異常に見えるが、これだけの量の合繊が輸入されていることも事実である。

2) 素材・形態別分類

綿の消費量を合繊化率 40-60%と仮定して予測すると表 S6.3-6 のようになる。GDP の伸びを年 5%とすると綿の国内消費量は 2000 年 65 千トン、2005 年 81 千トン、2010 年 99 千トンになる。

羊毛・絹については現状と同じ各 3 千トン、3 トンの需要とする。

形態別の消費については次のように予測する。

織布・ニットの比率は、綿については現在の消費構造が織布よりもニット主体であり、今後もこの傾向は変わらないと判断する。

合繊の FY・SF の比率については、現在の輸入品の消費実績は FY 2/3、SF 1/3 でありこの傾向が続くと判断する。

6.3.7 繊維輸出需要予測

(1) 繊維輸出の可能性

今後の綿花の輸出量について考えると、シリアの綿花生産が急激に増加する可能性がないこと、国内需要は着実に増加することから、綿花増産分はほぼ国内需要で消費され、輸出可能量は現在より大幅に増加する事はないと予測される。繊維の世界需給関係の項で述べてきたように世界の綿花に対する需要は十分にあり、シリアとして綿花を年間 15-16 万トン程度輸出することは可能であると判断する。

さらに追加して説明すれば図 S6.3-1 に示したように、綿花の生産国で、人件費も安いシリアが、綿製品の輸出の大部分を綿花で輸出しているという現状が正常ではないと判断される。例え綿花の原価が国際比較において高いとしても、綿花

輸出との比較においては安い人件費を活かした衣料輸出の方が経済的に優位であることは明らかである。綿花輸出を継続するとの前提であるならば、衣料品輸出の方が競争力を持つことはあきらかである。